

御命令ハ公債元利少仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモトス
預金、保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモシハ金庫出納役、本支
金庫ニ係ルモシハ關係シ金庫出納役代理人ニ向テ發スルモノトス

第三條 繼續收入ヲ繼續差押シ場合ニ於テ關係官廳又ハ金庫ニ變更アルトキハ申官
使又ハ甲金庫ノ受取タル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノト
ス

第三條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ
執行スヘキ金庫ニ向ヒ假令ニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第四條 仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引出切符ヲ政
府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ現金前
渡ヲ受ケタル當該官吏ハ速カニ金庫ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

第五條 差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルト
キハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手
續ヲ爲スヘシ

第六條 配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ
當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲ

爲スヘシ

第七條 差押金額ノ仕拂停止、仕拂執行又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

附 則

第九條 本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

參 照

○民事訴訟法 抄錄

第五百五條第二項

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テザルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ
供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カレ、コトヲ許ス可シ

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カレ、コトヲ
許ス可キトキハ差押タル金銀債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額
ヲ供託セシムル効力ノミヲ有ス

○被差押債務額仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續 廿七年二月大藏省令第二號
政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル
手續左ノ通相定ム

會計法規

第一條 仕拂命令官ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂

命令又ハ仕拂請求書並ニ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニ何之誰ノ差押債權者

何之誰渡ト記入シ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第二條 政府カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額

ノ一部分ナルトキハ其仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ各別ニ發行シ差押債權者ニ交付

スヘキモノハ前條ノ如ク記入スヘシ

第三條 第二條ノ場合ニ於テ官吏遺族扶助法納金及製艦費納金ノ差引ヲ要スルモノ

ハ政府ノ債權者ニ交付スル仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ於テスヘシ

第四條 現金前渡ヲ受ケタル官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ裁判

所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書

(公債元利仕拂ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ徴シ其差押金額ヲ仕拂フヘ

シ

第五條 金庫出納役又ハ其代理人ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル預金保

管金供託金ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ明治廿六年大藏省令第十九號第

九條ノ領收證書(差押債權者之ヲ謂)及預金通帳又ハ同年大藏省令第二十號第十條ノ保

管證書第十二條ノ拂渡證書又ハ同年大藏省令第二十一號第十條ノ請求書及受領證

書

第十二條ノ拂渡證書等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其差押

金額ヲ仕拂フヘシ

第六條 金庫出納役又ハ其代理人カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ差押ヘラレ

タル保管金ノ一部分ナルトキハ明治二十六年大藏省令第二十號第十二條第十五條

ノ順序ニ準據シ差押債權者ヲシテ拂渡證書又ハ保管證書分割ノ手續ヲ爲サシメタ

ル上其差押金額仕拂ヲ爲スヘシ

第七條 差押債權者明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ金庫ニ向テ仕拂

ノ停止ヲ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止

請求書ヲ金庫ニ差出スヘシ

第八條 金庫ニ於テ第七條ノ請求書ヲ受ケ其金額ノ既ニ仕拂濟ナルトキハ直チニ請

求書並ニ差押命令送達通知書ヲ返付スヘシ但仕拂未濟ナルトキハ差押命令送達通

知書ノミ返付スルモノトス

第九條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏既ニ仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令

第十條 金庫ニ於テ前條ノ仕拂停止通知書ヲ受ク其金額ノ既ニ仕拂済ナルトキハ直
 テニ其旨ヲ附箋シテ通知書ヲ返付スヘシ

第十一條 仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ仕拂命令官現金
 前渡ヲ受ケタル官吏直チニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ仕拂停
 止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付
 シアル仕拂命令仕拂請求書通知書(明治二十六年大藏省勅令第四十號附屬第一號書式以下同シ)又ハ現金引出切符ヲ
 差押債權者ヨリ提出セシメ之ニ同書式中何之誰渡トアル渡ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃
 シ其下ニ「ノ差押債權者何之誰渡」ハ通知書ノ場合ニハ何某殿トアル何某ノ文字ニ
 朱ノ二線ヲ劃シ「何某ノ差押債權者何之誰」ト記入シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十三條 第十二條ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ仕拂命令仕拂
 請求書通知書又ハ現金引出切符ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令仕
 拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ裏面ニ「表面ノ金額内何程別ニ差押債權者何
 之誰ニ仕拂フヘシ」ト記入シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ尙ホ第四號書式ニ據リ金
 庫ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證票ヲ調製シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スニ當リ既ニ現金引出切符ノ無効トナリタ
 ルトキハ更ニ現金引出切符ヲ發行シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十五條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏第十二條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第
 五號書式第十三條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ仕拂通知書ヲ金庫ニ送付
 スヘシ

第十六條 第七條第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ニ對シ金庫ハ仕拂命令官現金前
 渡ヲ受ケタル官吏ヨリ第十一條ノ仕拂停止解除ノ通知又ハ第十五條ノ仕拂通知ア
 ルニテ差押シタル仕拂ヲ爲スルコトヲ得ス

第十七條 金庫ハ第十二條第十三條ノ記入アル仕拂命令仕拂請求書通知書現金引出
 切符又ハ證票ヲ以テ仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通仕拂ニ關スル順序ヲ爲シタ
 ル止第十五條通知書ニ對查シ仕拂フヘシ

第十八條 明治二十六年勅令第三百六十一號第六條ニ據リ仕拂命令官現金前渡ヲ受
 ケタル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ仕拂命令仕拂請求書現金引出切
 符又ハ現金ニ明治二十六年大藏省令第二十一號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金
 庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ當該仕拂命令官現金前渡
 ヲ受ケタル官吏ニ於テ保管シ若シハ執行裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判
 所ニ送付シ其領收證書ヲ徴スヘシ

第十九條 第十八條ノ供託スヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令仕拂請求書又ハ現金引出切符ヲ各別ニ發行シ第十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 差押金額ヲ供託シタル仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令ヲ受ケタルトキハ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ
第二十一條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ取消通知書ヲ金庫及政府ノ債權者ニ送付シタル上第十八條第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 銀行又ハ金庫ニ於テ差押金額ヲ供託ヲ要スルトキハ其現金ハ明治二十六年大藏省令第二十一號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ其銀行又ハ金庫ニ保管シ若クハ執行裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判所ニ送付シ其領收證書ヲ徴スヘシ
第二十三條 差押金額ヲ供託シタル銀行又ハ金庫ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ第四條第

五條差押金額仕拂ノ例ニ據リ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ
(第一號書式) (用紙美濃ニツ切)

仕拂停止請求書

一金何程

某年度何處所管仕拂命令官官氏名發行
仕拂命令(仕拂請求書)集合仕拂命令(集合仕拂請求書)第何號何之誰渡
又ハ渡ノ内

右ハ別紙之通り裁判所ヨリ差押命令送達ノ通知ヲ領シ候ニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第六十一號第三條ニ據リ此段請求候也

何之誰債權者

何府(縣)何地

何之誰團

年月日

何地金庫宛

(第二號書式) (用紙美濃ニツ切)

仕拂停止通知書

一金何程

會計法規

又ハ 明治何年何月何日第何號
現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ内
右ハ差押命令ヲ受クタルニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第
四條ニ據リ此段通知候也
年月日
仕拂命令官 官氏名 名 圖
又ハ出納官吏 官氏名 名 圖

何地金庫宛
(第三號書式) (用紙美濃ニツ切)

仕拂停止解除通知書

某年度何處所管
仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號何之誰渡
又ハ渡ノ内
金額氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ内(本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命
令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)

一金何程
明治何年何月何日第何號
現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ内
右金額明治何年何月何日付ヲ以テ仕拂停止及通知置候處今般差押解除相成候此段
通知候也
年月日
仕拂命令官 官氏名 名 圖
又ハ出納官吏 官氏名 名 圖

何地金庫宛
(第四號書式) (用紙美濃ニツ切)

證 票

右者「某年度何處所管仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號
何之誰渡ノ内」(金額氏名表第何號何之誰渡ノ内)(金額氏名表云々ノ記入ヲ要スルハ集合
ハ「明治何年何月何日第何號現金引出切符何之誰渡ノ内」金何程ノ仕拂ヲ受クヘキ
差押債權者タルコトヲ證明ス
年月日
仕拂命令官 官氏名 名 圖
又ハ出納官吏 官氏名 名 圖

何地金庫宛
前記證票ノ金額何程正ニ領收候也

年月日
何地金庫宛
差押債權者
何 之 誰

備考「前記證票云々」以下ハ差押債權者ニ於テ記入スルモノトス
(第五號書式) (用紙美濃ニツ切)

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管第何號
案内仕拂命令(案内仕拂請求書)金何程何之誰渡

又、仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號)金何程何之誰渡
明治何年何月何日第何號案内引出切符何ノ誰渡

右ニ對スル仕拂命令(仕拂請求書、通知書、現金引出切符)ニ明治二十七年大藏省令
第二號第十二條ニ據リ差押債權者何之誰渡ト記入シ差押債權者ニ交付ス此段通知
候也

年月日

仕拂命令官 官 氏 名 團
又、出納官吏 官 氏 名 團

(第六號書式) (用紙美濃ニツ切)

差押金額仕拂通知書

一金何程

某年度何廳所管
仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號何之誰渡
又、金額氏名表第何號何之誰渡ノ内(本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命
令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)
明治何年何月何日第何號
現金引出切符何之誰渡ノ内

右金額差押債權者何府(縣)何地何之誰へ仕拂可有之此段通知候也
年月日

仕拂命令官 官 氏 名 團
又、出納官吏 官 氏 名 團

(第七號書式ノ甲) (用紙美濃ニツ切)

取消通知書

某年度何廳所管第何號
仕拂命令(仕拂請求書)金何程何之誰渡
又、仕拂命令(仕拂請求書)又、「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號」ニ係ル
第何號通知書金何程何某宛
又、明治何年何月何日第何號
現金引出切符金何程何之誰渡

右ハ明治何年何月何日仕拂停止及通知置候處今般該仕拂命令(仕拂請求書、通知
書、現金引出切符)取消候ニ付「右ニ係ル案内仕拂命令(案内仕拂請求書、案内引
出切符、仕拂命令送金ノ裏書)返付相成度」又、「右ニ對スル集合仕拂命令ノ金額何程
ニ更正シ金額氏名表中第何號ヲ取消ス」此段通知候也

會計法規

年月日

仕拂命令官 官氏名 官氏名 官氏名

又ハ出納官吏 官氏名 官氏名

何地金庫宛

(第七號書式ノ乙) (用紙美濃ニツ切)

取消通知書

某年度何處所管第何號

仕拂命令(仕拂請求書)金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令(仕拂請求書)又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書金額氏名表第何號」ニ係ル
第何號通知書金何程何某宛

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符金何程何之誰渡

右ニ對シ仕拂アヘキ金額ハ明治二十六年勅令第二百六十一號第六條ニ據リ供託セ
リ依テ疑ニ交付セシ前記仕拂命令(仕拂請求書通知書現金引出出符)ヲ取消ス此段
通知候也

年月日

仕拂命令官 官氏名 官氏名

又ハ出納官吏 官氏名 官氏名

何某宛

北海道廳 府縣

○歳入過誤納下戻金取扱方 廿二年三月訓令第十六號

本年四月一日以後歳入過誤納下戻金ノ儀ハ年度ノ内外ニ拘ハラス渾テ當省所管經費
諸拂戻及缺損金ヲ以テ支出シ其下戻方委任候條每一箇月前ニ下戻月額豫定仕譯書歳
出月額仕譯書ニ準シ調製ヲ送付シ豫メ當省ノ承認ヲ得其下戻ヲ要スル都度之ニ據リ
下戻方取計ヲ可シ

但整理方ハ一般歳出ニ關スル規則ニ據リ且本文下戻濟ノ上ハ歳出報告書中科目ノ
下ニ一廉毎ニ區分シ下戻ノ事由並ニ何年何月第何號歳入報告書ノ内何科目金額何
程ノ内下戻濟ト記載シ差出スヘシ

○諸拂戻 補填金 每一月仕拂命令濟額報告書式 廿三年三月訓令第五十二號

府 縣

明治二十三年度以降仕拂豫算ヲ以テ仕拂命令ヲ委任シタル諸拂戻及缺損補填金、非
職俸給(二十一年ノ仕拂命令濟額報告書別紙様式ニ據リ調製シ翌月七日迄ニ其應ヲ發シ
差出スヘシ)

但別紙様式ハ當省會計局ヨリ送付ス

○諸拂戻 補填金 每半年仕拂命令濟額報告書差出シ方 廿五年六月訓令第三十六號

税關 北海道廳 府縣

會計法規

○三十六號ハ
職關及造幣局
ニ對スル訓令
ナルヲ以テ揭
載セス

七百五十六

諸拂戻及缺損補填金ノ仕拂命令濟額報告書ハ本年度以降ハ二期(四月ヨリ九月迄ハ十月
年三月迄ハ四月七日以内)ニ其應ヲ發シ差出スヘシ

但翌年度四月以降ニ係ル分ハ完結ノ上七日以内ニ差出スヘシ

○諸拂戻補填金 每一週年度仕拂命令濟額及殘高報告書式 廿四年四月訓令第三十七號

北海道廳 府縣

明治二十三年度以降當省所管歳出ノ内仕拂豫算ヲ以テ仕拂命令ヲ委任シタル諸拂戻
及缺損補填金、非職俸給^{二十一年度以前}ノ一週年度仕拂命令濟額及殘高報告書左ノ様式ニ據
リ調製シ翌年度七月十五日以内ニ其應ヲ發シ差出スヘシ
(大藏省訓令第三十六號及三十七號様式) (用紙美濃紙)

明治何年度歳出經常(臨時)部

何々(款) (各款別ニ調製スヘシ)

一週年度

仕拂命令濟額及殘高報告書

何 廳

會計法規

七百五十七

○事由ヲ詳悉掲記スヘシ
ニ事由ノ一欄ヲ設ケ其殘高ニ對ス
造幣局、税關所屬經費ハ殘高ノ次

明治何年何月何日
仕拂命令官官氏名團

○金員ヲ記載スヘシ
造幣局、税關所屬經費ハ各節科目及

科目	仕拂豫算高	増	減	差引 現豫算高	仕拂命令 高	殘高
何々(款)	○配額ヲ掲ケ未タ分 諸拂戻及缺損補填 金、非職俸給ノ各目ハ 最初仕拂命令ヲ委任 セシ豫算高トス					○二據ル 諸拂戻及缺損補填 金、非職俸給ノ殘高ハ 豫算ノ例
何々(項)						
何々(目)						
何々(目)						
目計						
何々(項)						
何々(目)						
何々(目)						
目計						
項計						

○諸拂戻及缺損補填金ノ款中諸拂戻金ノ項ニ對スル
仕拂命令及委任ノ節整理方

廿七年七月訓令第四十二號
税關 北海道廳 府縣

明治二十八年年度以降當省所管經費諸拂戻及缺損補填金ノ款中諸拂戻金ノ項ニ對スル
仕拂命令及委任候節ハ左ノ各目ニ區分整理スヘシ

款	項	目
諸拂戻及缺損補填金	諸拂戻金	
		租 税 拂 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻
		租 税 誤 納 下 戻

○徵稅費所屬物件借入賣却契約締結委任方 廿三年五月訓令第七十四號 府 縣
内國稅徵收費ニ關スル物件ノ借入又ハ不用物品ノ賣却ニ關スル諸契約ハ府縣知事ニ
於テ適宜締結スルコトヲ得

會計法規

○廿五年二月
訓令第三十二
號以テ第一
項及書式改
正

○廿五年二月
訓令第三十二
號以テ第一
項及書式改
正
○廿四年四月
訓令第三十二
號以テ第一
項及書式改
正
○廿三年三月
訓令第三十一
號

表額仕
及残高
報告書

○内國稅徵收費仕拂豫算整理方 廿三年三月訓令第三十一號

府 縣

七百六十

明治二十三年度以降大藏省所管内國稅徵收費ノ仕拂豫算ヲ達シタルトキハ左ノ各項
ニヨリ仕拂豫算ノ整理ヲナスヘシ
一 仕拂命令官ハ左ノ第一號書式ニ據リ仕拂命令濟額報告書ヲ毎年度二回ニ區分調
製シ四月ヨリ九月マテノ分ハ其年十月七日以内十月ヨリ三月マテノ分ハ翌年四
月七日以内ニ大藏省ヘ送付スヘシ但年度後ノ仕拂命令濟額ハ完了後日數七日以
内ニ報告スヘシ
一 仕拂命令官ハ左ノ第二號書式ノ概算支出金整理簿ヲ備エ概算渡ニ係ル仕拂命令
額、精算額、返納額ヲ登記スヘシ
一 仕拂命令官ハ一周年度仕拂命令濟額及殘高報告書ヲ調製シ翌年度七月十五日以
内ニ其應テ發シ當省ニ送付スヘシ
但本項報告書ハ明治二十四年四月當省訓令第三十七號樣式ニ準據シ「殘高」ノ次
ニ「事由」ノ一欄ヲ設ケ毎目殘高ニ對スル事由ヲ詳細掲記スヘシ
一 臨時歲出ニ係ル仕拂豫算ヲ達シタルトキハ前各項ニ準據シ款別ニ整理スヘシ

(括弧内及印章ハ朱)

何 廳 (又ハ何廳何島廳)		應 (臨時歲出アルトキ ハ之レニ準シ各款 別ニ調製スヘシ)	
明治何年度經常歲出 自何年何月至何月 内國稅徵收費 仕拂命令濟額報告書		仕拂命令濟額	
科	目	定額戻入額	
		円	銭厘
何	(項)		
何	(目)		
何	(目)		
何	計		
何	(項)		
何	(目)		
何	(目)		
何	計		
何	(項)		
何	(目)		
何	總計		
明治何年何月何日		(料紙美濃紙製砂引)	
仕拂命令官		氏名印	

會計法規

七百六十一

(第二號書式)

明治何年度經常歲出
內國稅徵收費
概算支出金整理簿

(臨時歳出アルトキハ之レニ準シ各款別ニ調製スヘシ)

何 廳

○徵收費實蹟各稅別費用報告書式

廿五年二月訓令第七號

府 縣

明治二十四年度以降左ノ各項ニ據リ內國稅徵收費ノ實蹟及各稅別費用ヲ取調主稅局
へ報告スヘシ

一府縣知事ハ年度經過後每會計年度ニ屬スル一歲所要ノ費額ヲ直間稅署直間稅分署
ニ區分シタル報告書ヲ調製シ其年四月三十日限主稅局へ送付スヘシ

但島廳ニ屬スルモノハ別冊ニ調製スヘシ

一府縣知事ハ年度經過後每會計年度ニ屬スル一歲所要ノ費額ヲ各稅ニ分配シタル報
告書ヲ調製シ其年五月三十一日限主稅局へ送付スヘシ

一臨時歳出ニ係ルモノハ款別ニ調製シ第一項ノ日限ト同時ニ主稅局へ送付スヘシ

一前各項ノ書式ハ毎年度主稅局ヨリ送付スヘシ

○內國稅徵收費配賦並取扱順序 廿六年三月訓令第七號

府 縣

明治二十六年度以降內國稅徵收費配賦並取扱順序左ノ通之ヲ定ム

第一條 內國稅徵收費豫算配賦ヲ分チテ左ノ三類トス

第一類費

一 收稅長俸給

二 判任俸給

三 內國旅費

第二類費ヲ除ク

會計法規

第二類費ヲ除ク
第二類費及第三類費ヲ除ク

第二類費

- 一 所得稅調查費
- 二 各所修繕
- 三 滯納及犯則者處分費
- 四 內國旅費
土地検査ニ要スル旅費
- 五 備入料
土地検査ニ要スル人足費
- 六 印紙鑑札類諸費
鑑札製造費運搬費荷造費共
- 七 沖繩縣稅品取扱費

第三類費

- 一 退官賜金
- 二 死亡賜金
- 三 市町村交付金
- 四 印紙買戻金
- 五 訴訟金

○廿七年三月
訓令第二十號
ヲ以テ第六條
第七條及十一
條改正

第二條 第一類費ハ豫算年額ヲ定メ之ヲ配賦ス

第三條 第二類費ハ所要ノ年額見込明細書及金庫月別仕譯書ヲ製シ四月十日以内ニ
請求スヘシ

第四條 第三類費ハ支出ヲ要スル毎ニ精算金額明細書ヲ製シ之ヲ請求スヘシ

第五條 第一類費中廳費豫算配賦額ハ之ヲ各目ニ分配シ豫算配賦後十五日以内ニ之
ヲ報告スヘシ

第六條 當初配賦ヲ受ケタル第一類費ハ收稅部收稅署ニ計畫シタル各目限ノ金額ヲ
四月三十日限主稅局ニ報告スヘシ

第七條 豫算配賦額各項中目ノ金額彼是流用ヲ要スルトキハ流用ノ上年度末ニ至リ
取纏メ翌年度四月十日以内ニ之ヲ報告スヘシ但報告書ハ各目ニ付過不及ヲ生スル
金額理由及現豫算額、仕拂命令濟額、仕拂命令未濟額ヲ記載スヘシ

第八條 第二類費第四第五第七及特ニ費途ヲ指定シ配賦シタル費用ハ剩餘ヲ生スル
モ許可ヲ得ルニアラサレハ他ニ流用又ハ轉用スルヲ得ス

第九條 第二類費第一第三第六ノ豫算配賦額ニ不足ヲ生シタルトキハ其所要ノ精算
金額明細書ヲ製シ増額ヲ請求スヘシ但第三ニ限リ精算金額ヲ以テ請求シ難キトキ
ハ其理由ヲ詳悉シ見込金額明細書ヲ以テ請求スルコトヲ得

會計法規

第十條 各目又ハ特ニ費途ヲ指定シ配賦シタル金額精算上剩餘ヲ生シ又ハ生スヘキ見込確定シタルトキハ其時々金額ヲ報告スヘシ

第十一條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ要スルトキハ其事實ヲ詳悉シ伺出ヘシ
(第九條明細書々式)

何々(項)請求計算書

科	目	現配賦額	仕拂命令済額	仕拂命令未済額	請求額
何々(項)		円	円	円	円
何々(目)					
何々(目)					

○徴收費所屬經費検査員任命委任方 廿三年四月訓令第五十五號

府 縣

明治二十三年度以降内國徴收費所屬經費ニ係ル明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十七條ノ検査官吏及第百條第一項第二項ノ場合ニ要スル官吏ハ仕拂命令被任者ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得

○物品會計規則 廿二年六月勅令第八十四號

第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他

一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル
第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免

會計法規

七百六十七

オコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナサル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調査ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ本廳大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但

○第十四條ハ
廿四年七月
令第七十七號
ヲ以テ削除
ス

シ前任官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調査ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

會計法規

○廿六年四月
以第十四號
修正四月
十五日ヨリ
施行

○内國稅徵收費所屬物品出納規程 廿五年六月訓令第三十七號 府 縣
明治二十二年九月當省訓令第六十號内國稅徵收費所屬物品出納規程左ノ通り改定來
ル七月一日ヨリ施行ス

- 第七十
- 第一條 内國稅徵收費所屬ノ物品ハ總テ此規定ニ從フ
 - 第二條 物品出納ノ命令ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏之ヲ行フヘシ
 - 第三條 直稅署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トシテ物品ノ保管及之レカ出納ヲ爲サシムヘシ但豫備ノ物品ヲ貯藏スル直稅分署間稅分署ニ在テハ直稅分署收稅屬若クハ間稅分署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トナスヘシ
 - 第四條 消耗品中日常必要ノモノハ各員又ハ各部署ニ對シ每一ヶ月定額ヲ以テ仕拂若クハ一箇月以内ノ期限ヲ定メ需用概算高ヲ以テ仕拂フコトヲ得但概算渡ノ物品ハ遣拂精算ヲ爲サシメ定額渡ノ物品ニシテ年度末ニ至リ殘餘ヲ生シタルトキハ之ヲ返納セシムヘシ
 - 第五條 物品ヲ大別シテ左ノ二類トス
第一類 器具器械備品及第二類ニ屬セサル物品
第二類 消耗品
 - 第六條 物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ整理スヘシ但帳簿ノ様式ハ府縣知

事適宜之ヲ定ムヘシ

- 第一類 物品出納簿
 - 第二類 物品出納簿
 - 第七條 前條帳簿ノ外別ニ補助簿ヲ備フルハ便宜ニ任ス
 - 第八條 物品會計官吏ハ府縣知事ノ定メタル期限ニ於テ帳簿ト現品トノ照合ヲ爲スヘシ
 - 第九條 物品ノ購入及賣却ハ會計法及會計規則ノ定ムル所ニ從ヒ府縣知事之ヲ處理スヘシ但便宜他ノ官吏ニ委託シテ處理セシムルコトヲ得
 - 第十條 官吏以下執務上必要ノ物品ハ府縣知事豫メ其品類及員數ヲ定メテ之ヲ使用セシムヘシ
 - 第十一條 官吏以下専用ノ物品ハ各專用者共用ノ物品ハ別ニ主任ヲ定メ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ
 - 第十二條 凡ソ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ
- 物品ノ亡失毀損何人ノ所爲ニ出タルコトヲ認知シ難キ場合ニ於テハ其保管者辨償ノ責ニ任スヘシ且避クヘカラサル理由アルトキハ此限リニアラス

會計法規

第十三條 府縣知事ハ臨時委員ヲ命シ貯藏及使用中ノ物品ヲ檢閲セシムヘシ
第十四條 物品會計規則第十五條ノ物品出納計算書ハ翌年度七月十五日限り之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十五條 前條ノ計算書ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏ニ於テ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添付シ期限内ニ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ
第十六條 物品會計規則第十一條ノ檢査官吏及第十三條ノ立會人ハ府縣知事之ヲ命スヘシ

第十七條 物品會計規則第十五條第二項但書ノ計算書ハ府縣知事他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十八條 物品出納命令ノ規程及使用中又ハ概算渡ヲ爲シタル物品ノ取扱ニ關スル處務順序ハ府縣知事之ヲ定メ大藏省ヘ申報スヘシ
○鑑札用品出納規程 廿三年五月訓令第八十五號 北海道廳 府縣 主稅局

大藏省所管國稅ニ關スル鑑札用品出納順序左ノ通相定メ本年六月一日ヨリ施行ス但從前ノ訓令又ハ指令中此順序ニ牴觸スルモノハ同日ヨリ廢止ス

第一條 鑑札用品ハ消耗品ノ一部トシ各地方長官ノ分任代理官ノ命令ニ由リ本廳屬ヲシテ之ヲ出納セシムヘシ

第二條 鑑札用品ハ毎年三月及ヒ九月兩度ニ豫算ヲ以テ各地方收稅部出張所長又ハ島司郡長ヨリ地方長官ノ分任代理官ニ請求スヘシ但臨時必要アル場合ニ於テハ隨時之ヲ請求スヘシ

第三條 前條鑑札用品ノ配付ハ鑑札下付主任官吏之ヲ收受シ其種類員數ヲ記載セル領收證書ヲ製シ會計官吏ニ差出スヘシ

第四條 各收稅部出張所又ハ島廳郡役所ニ於テ直チニ製造シ又ハ買入ル、所ノ鑑札用品ト雖トモ其出納上ニ於テハ第二條第三條ノ式ヲ遵フヘシ

第五條 鑑札用品ノ支出ハ其請求書ニ命令官認印ヲ押捺スルヲ以テ命令ト做ス鑑札用品ハ會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ以テ出トシ鑑札下付主任官ノ領收證書ヲ以テ其支出ヲ完結スルモノトス

第六條 會計官吏及ヒ鑑札下付主任官吏ハ消耗品出納簿ヲ調製シ用品出納ノ事項ヲ記載スヘシ

第七條 物品會計規則第十七條ノ計算書下檢査ハ地方長官取纏メ之ヲ執行シ直チニ會計檢査院ニ送付スヘシ

○第八條ハ廿四年訓令第六號ヲ以テ削除ス

○ 訴願法 二十三年十月法律第五號

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提
記スルコトヲ得

- 一 租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒告又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
- 六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスルモノハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之
ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政
廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願

セントスルモノハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ
府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ
其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ
署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ并下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘ
シ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業
住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其内ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委
任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタルモノハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコ

トヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ起訴スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取

リタルヨリ十日以内ニ辨明書及ヒ必要文書ヲ添へ上級行政廳ニ之ヲ發達スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發達スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セ

ス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條 明治十五年^{十二月}第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處

分ス
請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セ
ントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

雜 纂

第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス
○行政裁判法 廿三年六月法律第四十八號

第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若ハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラル、モノトス
書記ハ長官之ヲ聘任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關係スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若ク

ハ參事會員タルコト

三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ
行政裁判所長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ

内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ

議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク
議決ハ過半数ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二 裁判スヘキ事件一人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其ノ事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ説明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキハ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及ヒ決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處分規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限

ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

雜

七百八十一

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ
法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

- 一 原告ノ身分、職業住所、年齢
- 二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告
- 三 要求ノ事件及其理由
- 四 立證
- 五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ

訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理人ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ

審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テ

ハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辨明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ヲ盡サ、ル所ヲ補足シ又ハ誤

謬ヲ更正シ若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ

審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決
議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡

ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證據ヲ

徴シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟

ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之

ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁

判所又ハ行政廳ニ囑托シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通

常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セザルコトアルモ

行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セザルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

七百八十六

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ
行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス
第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ヲキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス
第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

○行政廳違法處分出訴法 二十三年十月法律第百六號

○烟草稅則證
約金ノ如キハ
第一項ニ包含
セズ
二十七年三
月十八日官報
行政裁判例々決

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 國稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官有民有區分ノ査定ニ關スル事件

○恩給局裁決手續 廿四年六月閣令第二號

行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續左ノ通定ム

第一條 行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者恩給局ノ裁決ヲ請ハントスルトキハ其事由ヲ文書ニ認メ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ之ニ證據書類ヲ添ヘ内閣恩給局長ニ差出スヘシ前項ノ書類ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第二條 恩給局ニ於テ前條ノ申立理由アリト認ムルトキハ其書類ヲ當該官廳ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ添ヘテ之ヲ恩給局ニ差出サシムヘシ

第三條 恩給局ニ於テ必要ト認ムルトキハ請求者又ハ當該官廳ノ官吏ヲ召喚シ口頭

雜 纂

七百八十七

陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 恩給局ニ於テ裁決シタルトキハ裁決書ニ通テ作り請求者及當該官廳ニ交付スヘシ

○備荒儲蓄法 十三年六月布告第三十一號

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租國稅ノ部ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス分ニ限ル

第二條 備荒儲蓄金ヲ分ツテ中央儲蓄金府縣儲蓄金ノ二トス

中央儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ中央儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス

府縣儲蓄金ハ明治二十二年迄ノ府縣儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス

第三條 中央儲蓄金ハ國庫ニ備置キ大藏大臣之ヲ管理シ府縣儲蓄金ノ補助ニ充ツヘキモノトス

第四條 府縣儲蓄金ノ管守支給及ヒ利殖ノ方法ハ府縣知事之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務大藏兩大臣ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

○二十三年法
律第五號ヲ以
テ(3)符號ア
ル條項改正追
加

○二十三年法
律第五號ヲ以
テ第五條刪除

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ニ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサルモノニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣拂スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金百分ノ五以上ヲ供用支出スルモハ府知事「縣令」ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ「大藏卿」歳次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ尙ホ内務大藏兩大臣ニ報告スヘシ

大藏大臣ハ毎年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ

第十條 此方法ハ二十夕年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲

蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ
附 則

本法改正ノ爲メ府縣儲蓄金明治二十三年度内ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ
及ヒ收入豫算又ハ管守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ常置委員會ニ
付シ之ヲ議決セシムルコトヲ得

○備荒儲蓄金取扱順序 廿三年三月訓令第三十四號

備荒儲蓄金取扱順序明治廿三年以降左ノ通心得ヘシ

但收支科目及報告書式ハ別ニ頒ツ(書式畧ス)

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

○廿五年三月
廿六日訓令第
十六號ヲ以テ
支出科目中改
正

○廿六年三月
十三日訓令第
八號ヲ以テ公
ヲ國ト改ム

第一條 備荒儲蓄法第四條ニ因リ府縣儲蓄金ノ管守支給及利殖ノ方法ヲ定メ許可ヲ
得タルトキハ府縣知事ハ該年度ノ收支概計書別紙第一號ヲ製シ前年度三月末日マ
テニ大藏大臣ヘ差出スヘシ

第二條 府縣儲蓄金ノ内現金ヲ銀行等ヘ預ケ入ヲナズトキハ其金額ニ對スル抵當ヲ
要スヘキハ勿論其抵當ハ國債證書ヲ取置クヘシ

第三條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルトキハ之ヲ
猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第四條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ其返納年限内ニ於テ利引ヲ以テ一時上納ナサシ

ムル爲メ該府縣儲蓄金利率平均ノ分合ニ準シ利引ノ方法ヲ設ケントスルトキハ府
縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第五條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給料等ニ係ル諸費用都市町村
吏旅費ノ
如キハ此限
ニアラス並米穀國債證書ノ賣買等ニ關スル諸雜費及損失ヲ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支
辨スルノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第六條 備考儲蓄法第七條ニ依リ中央儲蓄金ノ補助ヲ請求セントスルトキハ府縣知
事ハ災害ノ景况ヲ見テ第四號第五號第六號書式ノ計算書ヲ添ヘ内務大藏兩大臣ニ
稟請スヘシ

第七條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキ府縣知事ハ其顛末ヲ管下ヘ告示スヘシ
第八條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書別紙第二號ヲ製シ上半期ハ十月中下半
期ハ翌年四月中其地ヲ發シ大藏大臣ヘ差出スヘシ

第九條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿現金米穀國債證書等ノ受
拂ヲ總括スルモノヲ云フ及内譯簿現金米穀國
債證書ノ所
在ヲ分チ我ハ收支ノ科目ニ因リ出
納ノ内譯ヲ明カニスル帳簿ヲ云フヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ

第十條 備荒儲蓄法第十條ニ因リ府縣儲蓄金ノ精算報告書別紙第三號ヲ製シ府縣會
ヘ報告ノ後内務大藏兩大臣ヘ差出スヘシ
第十一條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ年度首現在高表(第七號書式)ヲ調製シ年度首メ

○廿七年二月
廿八日訓令第
十二號
ヲ以テハ
アル條項改
正
追加

ヨリ五日以内ニ其地ヲ發シ之ヲ大藏大臣ヘ差出スヘシ

第十二條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セス直ニ其所在ニ就キ検査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令ヲ携帶スルモノトス

第十三條 備荒儲蓄法第四條ニ依リ規定スル府縣儲蓄金施行規則ノ外別ニ儲蓄金ニ關スル出納規程及救與内規ノ類ヲ設ケ若シハ之ヲ變更スルトキハ之ヲ内務大藏兩大臣ニ報告スヘシ

○土地收用法 二十二年七月法律第十九號

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ又建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

一 國防其他兵事ニ要スル土地

二 政府、府縣郡、市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地

五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ依ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シテ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業地及起業者並工事ノ種類ヲ公告スヘシ

國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及干係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工業準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲナストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ係ル

第八條 工事ノ仕様及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕様書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防

上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及圖面ヲ添フルヲ要セス若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目
- 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ
- 三 土地臺帳登記簿ニ依テ知り得ヘキ所有者及關係人ノ氏名
- 四 收用又ハ使用ノ時期
- 五 損失補償金額並其内譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ
前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有及關係人ヨリ意見

書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル土地收用審査委員會ヲ開クヘシ

土地收用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否

土地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ
補償ノ金額ヲ裁決スルハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル理由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受クタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受クタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係

人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セ
ス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限リニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受クタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマ
テハ起業者其工事ニ着手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス
補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受クタル日ヨリ三箇月以内ニ裁
判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ着手ヲ猶豫セサルコトヲ
得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合
ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ
價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價
格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ
補償スヘシ

土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニテ新ニ道路溝渠橋梁墻柵及井等ヲ設クサルヲ得サル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第二十條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部並建物ニ屬スル土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ増加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ

生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限リ各別ニ之ヲ補償スヘシ
書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ俟テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ニテ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様並補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人之カ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條 天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條 起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者關係人並其父子兄弟ハ土地收用審査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ノ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條 土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類願出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不明ナルトキハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サ、ルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シタルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條 國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百三十三號公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○土地收用協會規則 二十三年七月法律第五十四號

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認めルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官吏ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者^{官ノ起業ニ係ルトキハ其主任官吏}及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘン但少クトモ開會十日^{日前々條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ}協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞クモノトス
正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サザル者アルトキハ工事ノ仕様及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス
○官有財産管理規則 二十三年十一月勅令第二百七十五號
朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス

第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス

第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ

第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ毎年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

第七條 官有財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ

貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村

ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財產保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財產ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財產ヲ管理シ若クハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ク又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財產ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財產ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財產ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價
- 第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價

格アルモノハ其ノ價格

- 第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格
- 第四 交換ニ係ルモノハ其交換ニ由テ得タル財產
- 第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財產ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未濟ノ官有財產ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官有地取扱規則 二十三年十一月勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則
第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大臣地方官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下クントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地満期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與

交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限ハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立民有地ト爲サントヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○登記法 十九年八月法律第一號

○二十年法律第一號ヲ以テ

- 第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フヘシ
- 已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壊シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フヘシ
- 農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督スヘシ
- 第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム
- 第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム
- 第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス
- 第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付登記スヘキ概目左ノ如シ
- 第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面ノ價格
- 第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪、造作ノ有無

- 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別船名番號登簿噸數公稱馬力汽機及汽關ノ種類端船其他必要ノ所屬品
- 第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數端船其他必要ノ所屬品
- 第五 登記ノ事由
- 第六 金額
- 第七 質入書入ハ其期限及利息
- 第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所
- 第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實
- 第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實
- 第十一 登記ノ年月日
- 第八條 登記ハ契約者双方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求スヘシ
- 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出タル書類ノ受取證ヲ下付スヘシ
- 登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印スヘシ
- 第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押

ニ付テハ裁判所ノ命令書又ハ官廳ノ照會書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲スヘシ
前項ノ記入ハ裁判所又官廳ヨリ直ニ之ヲ求ムヘシ

第十條(イ)登記ハ第一條第二項第十五條第二項及第十六條第十七條第十八條ヲ除クノ
外契約者双方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ
又ハ取消スコトヲ得ス

第十一條(ロ)登記ノ謄本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ之ヲ請求スルコトヲ得
第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコ
トヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條(イ)地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付登記ヲ請フトキハ契約者双方出頭シテ其證
書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出スヘシ但第九條第十六條第十七條第十
八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應シ請求者
ヨリ之ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得

第十五條(ロ)家督相續ニ依リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ双方出頭シ其證書ヲ示
ス可シ

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フ
トキハ親屬二名以上又ハ親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ
且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ

第十六條(イ)行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フ
トキハ落札達書及其代金完納ノ證書ヲ示ス可シ

本條ノ登記ハ其處分ヲ爲タル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ムヘシ本項ノ規定ハ第十七條及
第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指
令ノ本書若クハ達書ヲ示スヘシ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示
シテ登記ヲ求ムヘシ

第十九條 裁判執行上ノ糶買若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者ア
ルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶賣買讓與ニ依リ地券鑑札ノ下付若ハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ

○二十年法律
第一號ヲ以テ
改正

登記簿ノ證ヲ受クヘシ

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入トナリタル地所ヲ書入トナストキ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手數料

第二十五條 地所建物船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ付其登記料ヲ納ムヘシ

賣買代價

登記料

五圓未滿	五錢
拾圓以上	拾錢
貳拾圓以上	貳拾五錢
拾圓未滿	五拾錢
貳拾圓未滿	壹圓
百圓以上	貳圓
貳百圓未滿	三圓
三百圓未滿	四圓
四百圓未滿	五圓
五百圓未滿	六圓
七百五十圓未滿	七圓
千圓以上	八圓
千五百圓未滿	九圓
貳千圓未滿	拾圓
五千圓未滿	拾貳圓
以上五千圓迄	每ニ貳圓ヲ增加ス

雜 案

○法第廿九年三月
登記簿法第七號
第九分ノ買
價ニ依リ
代價ニ依リ
トナル

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ記登ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ムヘシ

第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入書入人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ登記料ノ半額ヲ納ムヘシ但一件ニ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ムヘシ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マリサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲タル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付スヘシ

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ

讓與ノ登記料ヲ納メシム

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ムヘシ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用悪水路溜池敷、堤敷、井溝敷、及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル

登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ビ之ヲ評價入ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低

下ナルトキハ該費用ハ登記所ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢ヨリ五拾錢迄ヲ給ス

可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十條(七)登記簿ニ未タ登記セサル地所建物ノ船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スルモノハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得
右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登

○第三十九條
ハ二十年法
律第十三號
ヲ以テ消滅

記所ニ差出スヘシ但其ノ所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシム

第四十一條(七)登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知スヘシ

土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受タル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲スヘシ

登記所ハ前項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記スヘシ

○地所質入書入規則 六年一月十七日布告第十八號

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致候節ハ左ノ規則ノ通可相心得事

第一條 金穀ノ借主_地ヨリ返済スヘキノ證據トシテ貸主_金ニ地所ト證文トテ渡シ貸主_地其作德米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候テ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ貸主_地ヨリ返済スヘキノ證據トシテ貸主_金ニ地所引當ノ證文ノミテ渡シ借主ノ作德米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候テ書入ト云フ

雜 案

第三條 金穀ノ借主^{地主}ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主^{金主}ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候テモ亦書入ト云フ

第四條 地所ヲ賃入ニ致候節ハ地券ヲモ相渡可申其年期ノ儀ハ三ク年ヲ限ルヘシ尤三ク年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘク且ツ年限取極候廉ハ判然證文面ニ記載致置可申事

但書入ノ儀ハ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニ在ラスト雖モ双方相對ニテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致置可申事

○十二年布告第七號ヲ以テ改正

第五條 賃入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ可引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加印ノ上金主ヨリ地券相添確認ノ證ヲ可願出事

第六條 賃入ノ地所ハ金主ニテ其地耕作可致筈ニ付テハ地租諸役トモ總テ地主ニテ可相勤事

但其段管轄廳へ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致候儀ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事但管轄廳へ届出ニ及ハス候事

○第九條ハ十九年法律第一

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ賃ニ取り候節ハ其現地ノ村町へ

號ニヨリ消滅

○七年第五十二號布告ヲ以テ改正

金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可爲相勤事

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主ヘ引當ニ入レ借候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添ヘ致シ候儀ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡第三番以下右ニ準シ引渡申スヘク若糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スル時ハ其不足ノ分ヲ償フコト並ニ第三番以下ノ金主ニ償フコトハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事

但第二番ノ金主ヘ受取候證文ヘハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添ヘ候旨ヲ書載セ可申事

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人へ賣買賃入書入等致シ金子受取又ハ借受候儀一切不相成候事

○七年第五十二號布告ヲ以テ改正

第十二條 賃入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ルトキハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ賃ニ差入レサセ證文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ代リ賃ニ差入ルヘキ地所物品等コレナキトキハ訴訟ノ

但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請テ其借地タルコトヲ證スルノ與書ヲ請クヘシ

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用金穀又ハ預リ金穀ニテ返濟期限ノ定ナキ證文ヲ所持スル者ハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀預主又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ證文ニ改ムヘシ若シ預主又ハ其相續人證文ヲ改メサルハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離毎八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用證文又ハ預リ證文ヲ所有スル者ハ返濟期限ニ至ルト至ラサルトニ論テ明治九年二月廿八日迄ニ金穀預主又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ證文ニ改ムヘシ若シ預主又ハ其相續人證文ヲ改メサルハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取リタルトキヨ

リ三日内ニ裁判所ヨリ被告ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何縣管下寄居何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ニ爲ス證文ニ公證スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至リシ時ハ公證ノ差留ヲ解クコトヲ速ニ戸長ニ報知スヘシ

第十一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀預リ證文ヲ所持スル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ預リ證文ト看做スヘシ

第十二條 尤借主身代限ノ處分ニ至ルトキハ右建物糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘシ若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルトキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ

但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ證文ニハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ借添タル旨ヲ書載スヘシ

○十九年法律
第一號ニ依リ
自ラ修正

○十年布告第
三十八號ヲ以
テ追加

○第二條第三
條全上

第十四條 書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシハ貸主ヨリ借主ニ對シテ質ヲ受取ルヲ求テ爲スコトヲ得ヘシ若シ借主代リ質ヲ出ストテ肯ハス又ハ出シ能ハサルハ借用金返濟期限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シテ元利金返濟ヲ求ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

建物賣買讓渡規則

第一條 借地ニ建テアル建物ノ讓渡證文ニハ其地主ニ請ヒ其地主ヨリ貸地タルヲ證スルノ與書ヲ受クヘシ
但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請テ其貸地タルヲ證スル與書ヲ受クヘシ

第四條 書入質ト成リタル建物ヲ讓受タル者ハ其建物ノ書入質ト成リタル金數ノ償却ヲ引受クヘシ
但讓受人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄シタル時ハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受ルニ及ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受タル相續人ハ前戸主ヨリ讓受タル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クヘシ
○會計検査院法 二十二年五月法律第十五號

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シテ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官拾貳員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルコトナシ

會計検査官ニ係ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ

得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス
一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團躰及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

算

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ク意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辨ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辨明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會テ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ

推問シ辨明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑證ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計検査院事務章程 二十二年九月勅令第百六號

第一章 部課

雜 彙

第一條 會計検査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ケ各課ノ課長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ検査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條 會計検査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章 會議

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

第四條 總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條 總會議ハ現員會計検査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニアラサレハ議事ノ効力ヲ有セス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

検査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計検査官ノ數三分ノ一以内ニ限ル

第六條 總會議及部會議ハ課長ノ査閱ヲ經タル検査官補ノ報告書若ハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章 職員及權限

第七條 院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ叙位叙勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ増俸賞與ヲ行フ

第九條 検査官ハ奏任四等以上トシ検査官補ハ奏任四等以下トス

第十條 會計検査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

- 第一 各部及各課管理ノ事務ヲ定ム
- 第二 職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス
- 第三 検査官補ニ總會議出席ヲ命ス
- 第四 臨時屬官ニ指命シテ検査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス
- 第五 特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム
- 第六 奏任以下ノ官吏ニ派出検査ヲ命ス
- 第七 検査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム
- 第八 議事ニ關ル細則ヲ定ム
- 第九 會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス
- 第十 庶務及會計ニ關ル規定ヲ定ム

第十二條 院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第十四條 總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專務之ヲ改ムルコトヲ得

第十五條 院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得

第十七條 院長ハ檢査ノ精覈ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽査ヲ行フヘシ

第十八條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一 所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽査シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長

ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二 檢査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三 部中檢査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四 部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以内ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條 部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理

第二十四條 課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條 課長ハ課中検査官補ノ調製スル文書ヲ査閲シ其ノ適當ヲ證シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ検査官補ノ責任ニ屬スルモノ、外ハ院長及部長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條 課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條 課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍内ニ於テ會計検査院法第十四條第十五條ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ検査報告書又ハ行務成績書ニ掲載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條 検査官補ハ計算書證憑書ノ検査報告ヲ爲シ審理書其ノ他文章ノ起草ヲ掌ル検査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ検査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條 検査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲ス
第三十條 検査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ検査官ノ欠席ヲ補充スル爲ニ總會議

又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條 書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條 屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス
第四章 行務

第三十三條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員ノ擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條 會計ノ検査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一 命令官決算ノ檢定

第二 出納官吏計算ノ検査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各省決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

出納官吏計算ノ検査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ依リ之ヲ執行ス
右ノ外會計検査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ検査判決ハ其主管者ヨリ提出シタル計算書及證憑書ニ依リ之ヲ執行ス

第三十五條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ及其ノ判決ニ與ルコトヲ得ス

第三十六條 會計検査院ハ検査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書

ヲ發付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條 會計検査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條 審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一 不合规ノ件ニ對スル批難

第二 將來ノ措置ニ對スル注意

第三 不明瞭ノ件ニ對スル推問

第三十九條 會計検査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

検査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條 出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計検査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條 判決書ヲ發シタルトキハ會計検査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ

第四十二條 會計検査院前項ノ要求ニ要スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認

ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條 會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル

第一 計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ

第二 脱漏又ハ二重記載アリトスルトキ

第三 新ニ證據書ヲ發見シタルトキ

第四 正當ナラサル證據書ニ據リ判決シタリトスルトキ

第五 判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ

第四十四條 再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第四十五條 會計検査院ハ検査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

○臺灣ニ會計検査院支廳ヲ設置スル件 二十九年五月法律第九十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臺灣ニ會計検査院支廳ヲ設置スルノ法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣地方所在官廳ノ歲入歲出及官有物ニ關スル計算ヲ検査スル爲メ會計檢

查院ニ一部ヲ増設シ之ヲ臺灣ニ置キ會計検査院臺灣支廳ト稱ス

第二條 會計検査院ニ部長一員検査官三員書記官一員検査官補五員及屬若干員ヲ増置シ臺灣支廳ノ職員ニ充ツ

第三條 部長ハ検査上必要ナリト認ムルトキハ所屬官吏ヲ派遣シテ實地検査ヲ爲スコトヲ得

第四條 此ノ法律ニ規定セサル事項ハ總テ會計検査院法ニ依ル

○會計検査院臺灣支廳事務章程 二十九年五月勅令第百六十四號

朕會計検査院臺灣支廳事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院臺灣支廳事務章程

第一條 部長ハ支廳中一切ノ事務ヲ管理シ廳員ヲ監督ス

第二條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ會計検査院總會議ニ提出スルノ外復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第三條 部長ハ臺灣總督ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第四條 部長ハ其ノ主管事務ノ分配ヲ定メ又ハ院長ノ認可ヲ得テ支廳ノ處務ニ關スル規程ヲ定ム

第五條 部長ハ其ノ主管事務ニ關シ會計検査院法第十四條ニ依レル検査報告書又ハ第十五條ニ依レル行務成績書ニ掲載スヘキ事項其ノ他會計検査院總會議ノ議決ヲ要スト認ムル事項ハ報告書ヲ添ヘ其ノ議決ヲ求ムル爲メ院長ニ提出スヘシ

第六條 部長事故アルトキハ上席ノ検査官之ヲ代理シ課長事故アルトキハ部長ノ命ニ依リ他ノ課長之ヲ代理ス

第七條 書記官ハ部長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第八條 屬ハ各課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第九條 計算検査ノ判決ハ部會議ニ於テ之ヲ爲ス但院長ニ於テ總會議ヲ要スト定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 支廳主管ノ事務ニシテ部長ヨリ會計検査院總會議ノ議決ヲ求ムル爲メ院長ニ提出スルモノハ會計検査院ノ或ル一部ニ於テ之ヲ管理シ所屬検査官補ヲシテ議案提出及其ノ辯明等ヲ爲サシムヘシ其ノ部ハ院長之ヲ定ム

第十一條 會計検査院長ハ其ノ權限ニ屬スル事務ノ一部ヲ部長ニ委任スルコトヲ得

第十二條 此ノ勅令ニ規定セサル事項ハ總テ會計検査院事務章程ニ依ル

○諸罰例處斷方 十四年十二月布告第七十二號
明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處ス十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ「輕罪裁判所」ニ於テ之ヲ裁判ス

但「始審裁判所」所在ノ地ヲ除クノ外ハ「治安裁判所」ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

○葉煙草專賣法 二十九年三月法律第三十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル葉煙草專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○裁判所構成
法參看スベシ

葉煙草專賣法

第一條 政府ハ葉煙草ノ專賣權ヲ有ス

第二條 葉煙草ハ政府之ヲ收納シ總テ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ
何人ヲ問ハス政府ヨリ買受クタル葉煙草ニ非サレハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス

第三條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後總テ其ノ葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス

第四條 葉煙草ヲ耕作シタル者葉煙草ヲ納付スルトキハ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交付スヘシ
葉煙草ノ賠償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ其ノ品位等級ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム若此ノ鑑定ニ不服アルトキハ更ニ鑑定ヲ求ムルコトヲ得

第五條 葉煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年四月三十日迄ニ政府ニ其ノ段別ヲ届出ヘシ

第六條 葉煙草ハ政府ニ届出テタル土地ニ非サレハ耕作スルコトヲ得ス

第七條 葉煙草耕作者ノ變更シタルトキハ其ノ耕作ヲ繼承シタル者ヨリ其ノ旨政府ニ届出ヘシ

第八條 煙草製造ヲ業トスル者及葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ヲ耕作スルコト

ヲ得ス

第九條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草收穫ノ前及葉煙草乾燥ヲ了リタル後政府ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後翌年三月三十一日迄ニ政府ノ指定シタル場所ニ之ヲ納付スヘシ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セントスルトキハ政府ノ認許ヲ受クヘシ

第十一條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ヲ買受クルコトヲ得ス又自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ク標本トシテ買受クルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 輸出ニ供スル葉煙草ハ政府ノ認許ヲ受クルトキハ之ヲ政府ニ納付セスシテ他ニ賣渡スコトヲ得

第十三條 前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ其ノ保管證ヲ以テ賣買スルコトヲ得

第十五條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年内ニ輸出セサルトキハ政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草ハ輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管若ハ運搬ノ爲ニ生シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ノ所屬ヲ問ハス葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ検査スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在ト認ムル場所ニ立入又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運送中ニアルモノハ其ノ所在ニ就キ之カ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設クテ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第二十條 耕作ノ届出ヲ爲サスシテ葉煙草ヲ耕作シタル者又ハ届出ヲ爲サル土地ニ葉煙草ヲ耕作シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ葉煙草ヲ沒收ス

第二十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡又ハ消費シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其ノ賠償金ヲ交付スヘシ
第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者葉煙草買受ク又ハ自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキ其ノ收

納及賠償金ノ交付ハ前條但書ヲ適用ス

第二十三條 葉煙草耕作者變更ノトキ其ノ繼承ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 葉煙草ノ收穫ヲ始ムル前又ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後之カ届出ヲ爲サ、ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉煙草ノ検査ニ際シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弗ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ其ノ代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ於テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第二十九條 本法ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第三十條 遠隔ノ島嶼ニシテ内地ト一般ノ狀勢ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ地方ニ對シ勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得

本法ヲ施行セサル地方ヨリ本法施行地ニ葉煙草ヲ輸入スルコトヲ得ス
第三十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

第三十二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ但シ納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○葉煙草專賣資金會計法 二十九年四月法律第七十九號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル葉煙草專賣資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
葉煙草專賣資金會計法

第一條 葉煙草專賣法ニ依リ政府ニ於テ收納スル葉煙草賠償ノ爲葉煙草專賣資金ヲ置キ特別會計ヲ設置ス

第二條 每會計年度ニ於テ其ノ歲入ノ葉煙草賠償金ニ超過スルモノハ同年度一般ノ歲入ニ編入シ資金ハ翌年度ニ繰越スヘシ

第三條 政府ハ毎年葉煙草專賣資金特別會計ノ歲入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第四條 葉煙草專賣資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

○稅務管理局官制 廿九年十月勅令第三百卅七號

朕稅務管理局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅務管理局官制

第一條 稅務管理局ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ内國稅ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 稅務管理局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

第三條 稅務管理局管轄内須要ノ地ニ稅務署ヲ置ク其ノ位置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 稅務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

司稅官

各稅官補

稅務屬

第五條 局長ハ各局一人司稅官ヲ以テ之ニ充ツ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ク稅務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄内ノ事務ヲ管理ス

第六條 局長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ稅務屬ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス

第七條 司稅官ハ委任トシ各局ヲ通シテ三十八人ヲ以テ定員トス第五條ニ依リ局長タル者ノ外東京、大阪、名古屋、仙臺、金澤、廣島、丸龜、熊本、京都、長崎、宇都宮、松

本、松江、鹿兒島、新潟ノ各稅務管理局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク

第八條 司稅官補ハ委任トシ各局各署ヲ通シテ百八人ヲ以テ定員トス局長ノ指揮ヲ承ク稅務ノ監督ニ從事セシメ又ハ大藏大臣ニ於テ指定スル所ノ稅務署長ニ充ツ

第九條 稅務屬ハ判任トシ各局各署ヲ通シテ五千二百人ヲ以テ定員トス稅務管理局若クハ稅務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ク庶務及檢査ニ從事ス

第十條 各稅務署ニ署長一人ヲ置キ司稅官補若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充ツ

稅務署長ハ上官ノ指揮ヲ承ク其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

附則

第十一條 本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス但シ北海道ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第二百二十二號各省官制通則及同年勅令第六十二號地方官官制

雜 纂

八百四十九

中收稅長收稅屬收稅部收稅署ニ係ル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
(別表)

八百五十

稅務管理局名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京稅務管理局	武藏國東京	東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 群馬縣
大阪稅務管理局	攝津國大阪	大阪府 兵庫縣 奈良縣 和歌山縣
名古屋稅務管理局	尾張國名古屋	愛知縣 靜岡縣 三重縣 岐阜縣
仙臺稅務管理局	陸前國仙臺	宮城縣 巖手縣 山形縣
金澤稅務管理局	加賀國金澤	石川縣 福井縣 富山縣
廣島稅務管理局	安藝國廣島	廣島縣 岡山縣 山口縣
丸龜稅務管理局	嚴波國丸龜	香川縣 德島縣 高知縣
熊本稅務管理局	肥後國熊本	熊本縣 福岡縣 大分縣
京都稅務管理局	山城國京都	京都府 滋賀縣
長崎稅務管理局	肥前國長崎	長崎縣 佐賀縣
宇都宮稅務管理局	下野國宇都宮	栃木縣 茨城縣
松本稅務管理局	信濃國松本	長野縣 山梨縣
松江稅務管理局	出雲國松江	島根縣 鳥取縣
鹿兒島稅務管理局	薩摩國鹿兒島	鹿兒島縣 宮崎縣
新潟稅務管理局	越後國新潟	新潟縣
郡山稅務管理局	岩代國郡山	福島縣
青森稅務管理局	陸奥國青森	青森縣
秋田稅務管理局	羽後國秋田	秋田縣
松山稅務管理局	伊豫國松山	愛媛縣
函館稅務管理局	渡島國函館	渡島國一圓 後志國ノ内 磯谷郡 久遠郡 檜部郡 大樽郡 檜部郡 島牧郡
札幌稅務管理局	石狩國札幌	石狩國ノ内 日高國 十勝國 天鹽國一圓 後志國ノ内 小樽郡 高島郡 余市郡 美國郡 釧路郡 岩内郡 釧路國ノ内 釧路郡 古平郡 古宇郡 忍路郡 室蘭郡 岩内郡 北見國ノ内 釧路郡 虻田郡 有珠郡 室蘭郡 幌別郡 宗谷郡 勇拂郡 白老郡 千歲郡 禮文郡 枝幸郡 利尻郡

雜 纂

八百五十一

中收稅長收稅屬收稅部收稅署ニ係ル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
(別表)

稅務管理局名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京稅務管理局	武藏國東京	東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 群馬縣
大阪稅務管理局	攝津國大阪	大阪府 兵庫縣 奈良縣 和歌山縣
名古屋稅務管理局	尾張國名古屋	愛知縣 靜岡縣 三重縣 岐阜縣
仙臺稅務管理局	陸前國仙臺	宮城縣 巖手縣 山形縣
金澤稅務管理局	加賀國金澤	石川縣 福井縣 富山縣
廣島稅務管理局	安藝國廣島	廣島縣 岡山縣 山口縣
丸龜稅務管理局	讚岐國丸龜	香川縣 德島縣 高知縣
熊本稅務管理局	肥後國熊本	熊本縣 福岡縣 大分縣
京都稅務管理局	山城國京都	京都府 滋賀縣
長崎稅務管理局	肥前國長崎	長崎縣 佐賀縣
宇都宮稅務管理局	下野國宇都宮	栃木縣 茨城縣

松本稅務管理局	信濃國松本	長野縣 山梨縣
松江稅務管理局	出雲國松江	島根縣 鳥取縣
鹿兒島稅務管理局	薩摩國鹿兒島	鹿兒島縣 宮崎縣
新潟稅務管理局	越後國新潟	新潟縣
郡山稅務管理局	岩代國郡山	福島縣
青森稅務管理局	陸奥國青森	青森縣
秋田稅務管理局	羽後國秋田	秋田縣
松山稅務管理局	伊豫國松山	愛媛縣
函館稅務管理局	渡島國函館	渡島國一圓 磯谷郡 歌葉郡 壽都郡 大樽郡 後志國ノ内 山越郡 久遠郡 奥尻郡 島牧郡 虻田國ノ内 山越郡
札幌稅務管理局	石狩國札幌	石狩國 日高國 十勝國 天鹽國一圓 後志國ノ内 小樽郡 高島郡 余市郡 美園郡 虻田國ノ内 積丹郡 古平郡 古宇郡 忍路郡 岩内郡 北見國ノ内 釧路郡 勇拂郡 有珠郡 室蘭郡 幌別郡 宗谷郡 枝幸郡 利尻郡 禮文郡

雜 纂

京													馬			
都											京		馬			
峯山	宮津	舞鶴	綾部	福知山	園部	周山	龜岡	水津	伏見	下京	上京	伊勢崎	館林	桐生	山田郡	邑樂郡
中郡 竹野郡 熊野郡	與謝郡	加佐郡	何鹿郡	天田郡	船井郡	北桑田郡	南桑田郡	相樂郡 綴喜郡	乙訓郡 紀伊郡 宇治郡	下京郡 葛野郡	上京區 愛宕郡	佐波郡				

大													郡																
大											賀		滋																
茨木	池田	天王寺	上福島	中ノ島	船場	今津	木ノ本	長濱	彦根	愛知川	八幡	水口	草津郡	大津	滋賀郡	栗太郡 野洲郡	甲賀郡	蒲生郡	神崎郡 愛知郡	犬上郡	阪田郡 東淺井郡	伊香郡 西淺井郡	高島郡	南區 東區	西區 北區	西成郡	東成郡	豐能郡	三島郡

千		玉			埼				川					
佐倉	松戸	千葉	杉戸	岩槻	忍	熊谷	本庄	大宮	松山	川越	浦和	中野	厚木	小田原
印旛郡 南相馬郡 下城生郡	東葛飾郡	千葉郡 市原郡	北葛飾郡	南埼玉郡	北埼玉郡	大里郡	兒玉郡	秩父郡	比企郡	入間郡	北足立郡	津久井郡	愛甲郡	足柄下郡

京																													
群						葉																							
太田	沼田	中ノ條	安中	宮岡	藤岡	高崎	前橋	北條	水更津	大多喜	茂原	東金	銚子	佐原	香取郡	匝差郡	海上郡 武射郡	山邊郡 上城生郡	夷隅郡	望陀郡 周准郡 天羽郡	安房郡 平郡 朝夷郡	長狹郡	前橋市 勢多郡	群馬郡	多野郡	北甘樂郡	碓氷郡	新山郡	利根郡

長		阪															
長		山					歌			和		夏					
諫早	大村	長崎	新宮	田邊	御坊	湯淺	橋本	岩出	和歌山	上市	五條	御所	松山	三輪	式上郡	式下郡	十市郡
北高來郡	東彼杵郡	長崎市 西彼杵郡	東牟婁郡	西牟婁郡	日高郡	有田郡	伊都郡	那賀郡	和歌山市 海草郡	吉野郡	宇智郡	高市郡 忍海郡 葛上郡 葛下郡	宇陀郡				

新		崎													
新		賀					佐			崎					
新發田	新瀉	鹿島	武雄	伊萬里	唐津	小城	轟木	神崎	佐賀	嚴原	武生水	福江	平戸	島原	南高來郡
北蒲原郡	新瀉市	藤津郡	杵島郡	四松浦郡	東松浦郡	小城郡	三養基郡	神崎郡	佐賀市 佐賀郡	上縣郡 下縣郡	壹岐郡	南松浦郡	北松浦郡		

兵										阪				
加古川	北條	中村	社	三木	明石	三田	伊丹	四宮	神戸	牧方	八尾	富田林	岸和田	堺
加古郡	加四郡	多可郡	加東郡	美濃郡	明石郡	有馬郡	川邊郡	武庫郡ノ内 山田村 山田村	神戸市 武庫郡ノ内 山田村	北河内郡	中河内郡	南河内郡	泉南郡	堺市 泉北郡

奈										庫				
奈其	市村	洲本	篠山	柏原	村岡	和田山	出石	豐岡	山崎	佐用	赤穂	龍野	田原	姫路
添上郡 廣瀬郡	三原郡	津名郡	多紀郡	氷上郡	美方郡	養父郡 朝來郡	出石郡	城崎郡	丹波郡	佐用郡	赤穂郡	揖保郡	神崎郡	姫路市 飾磨郡

種
纂

八百五十七

八百五十六

名										宮				
愛										城				
牛田	津島	稻澤	小折	西枇杷島	勝川	熱田	名古屋	取手	境	宗道	下館	江戸崎	谷田部	土浦
知多郡	海東郡 海西郡	中島郡	丹羽郡 葉栗郡	西春日井郡	東春日井郡	愛知郡	名古屋市	北相馬郡	模島郡	結城郡	眞壁郡	稻敷郡	筑波郡	新治郡

三					知									
白子	龜山	四日市	大泉原	桑名	富岡	豊橋	御油	新城	田口	足助	舉母	岡崎	西尾	知立
河護郡	鈴鹿郡	三重郡	員辨郡	桑名郡	八名郡	渥美郡	寶飯郡	南設樂郡	北設樂郡	東加茂郡	西加茂郡	額田郡	幡豆郡	碧海郡

瀧														
瀧														
相川	村上	糸魚川	高田	安塚	柏崎	十日町	六日町	小千谷	長岡	興板	津川	三條	卷	新津
佐渡郡	岩松郡	西頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	刈羽郡	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	古志郡	三島郡	東蒲原郡	南蒲原郡	四蒲原郡	中蒲原郡

都														
茨					水					栃				
麻生	鉦田	松原	太田	菅谷	笠間	水戸	大田原	矢板	真岡	宇都宮	鹿沼	栃木	佐野	足利
行方郡	鹿島郡	多賀郡	久慈郡	那珂郡	西茨城郡	水戸市 東茨城郡	那須郡	鹽谷郡	芳賀郡	宇都宮市 河内郡	上都賀郡	下都賀郡	安蘇郡	足利郡

松											屋			
長						早								
福島	飯田	伊那	上諏訪	上田	岩村田	白田	高山	中津川	土岐津	御嵩	太田	八幡	上有知	北方
西筑摩郡	下伊那郡	上伊那郡	諏訪郡	小縣郡	北佐久郡	南佐久郡	大野郡 益田郡 吉城郡	惠那郡	土岐郡	可兒郡	加茂郡	郡上郡	武儀郡	本巢郡 席田郡

本

山					野									
諏崎	龍王	畷澤	石和	日下部	甲府	飯山	長野	中野	須坂	屋代	鹽崎	大町	豊科	松本
北巨摩郡	中巨摩郡	南巨摩郡 西八代郡	東八代郡	東山梨郡	甲府市 西山梨郡	下水内郡	上水内郡	下高井郡	上高井郡	埴科郡	更級郡	北安曇郡	南安曇郡	東筑摩郡

古														
靜					重									
江尻	吉原	沼津	三島	下田	木本	尾鷲	島羽	名張	上野	宇治山田	相可	松坂	久居	津市
庵原郡	富士郡	駿東郡	田方郡	賀茂郡	南牟婁郡	北牟婁郡	志摩郡	名賀郡	阿山郡	度會郡	多氣郡	飯南郡	一志郡	安濃郡

岐					岡									
揖斐	垂井	大垣	高田	高須	笠松	岐早	氣賀	濱松	見付	森	掛川	靜波	膝枝	靜岡
大野郡 池田郡	不破郡	安八郡	多藝郡 上石津郡	海西郡 下石津郡	羽栗郡 中島郡	岐早市 方縣郡 山縣郡 各務郡	引佐郡	濱名郡	磐田郡	周智郡	小笠郡	榛原郡	志太郡	靜岡市 安倍郡

郡														
福											形			
白河	棚倉	高田	阪下	喜多方	若松	田島	須賀川	郡山	二本松	桑折	福島	米澤	長井	高知
西白河郡	東白川郡	大沼郡	河沼郡	耶麻郡	北會津郡	南會津郡	岩瀬郡	安積郡	安達郡	伊達郡	信夫郡	米澤市	西區賜郡	東區賜郡

山													
青											島		
秋田	八戸	田名部	七戸	五所川原	黒石	弘前	隠ヶ澤	青森	中村	富岡	平	三春	石川
秋田市	三戸郡	下北郡	上北郡	北津輕郡	南津輕郡	弘前市	四津輕郡	東津輕郡	相馬郡	雙葉郡	石城郡	田村郡	石川郡
土崎	秋田	八戸	田名部	七戸	五所川原	黒石	弘前	隠ヶ澤	青森	中村	富岡	平	三春
南秋田郡	秋田市	三戸郡	下北郡	上北郡	北津輕郡	南津輕郡	弘前市	四津輕郡	東津輕郡	相馬郡	雙葉郡	石城郡	田村郡

仙													
城											宮		
盛岡	角田	大河原	石巻	本吉	佐沼	築館	涌谷	古川	吉岡	長町	仙臺	猿橋	谷村
盛岡市	伊具郡	柴田郡	牡鹿郡	本吉郡	登米郡	栗原郡	遠田郡	志田郡	黒川郡	名取郡	仙臺市	北郡留郡	南郡留郡
紫波郡	互理郡	刈田郡	桃生郡					玉造郡	加美郡	宮城郡			
東和賀郡	西和賀郡												

手														
山											手			
酒田	鶴岡	藤島	新庄	楯岡	寒河江	天童	山形	福岡	久慈	宮古	遠野	盛	一関	水澤
飽海郡	西田川郡	東田川郡	最上郡	北村山郡	西村山郡	東村山郡	山形市	二戸郡	南九戸郡	北九戸郡	西閉伊郡	南閉伊郡	氣仙郡	西磐井郡
							南村山郡		北九戸郡	北九戸郡	中閉伊郡	南閉伊郡	東磐井郡	江刺郡

雜 藪	松											山		
	根 島											井	石	氷
島	西	津	益	濱	川	大	掛	今	大	廣	松	井	石	氷
取	郡	和	田	田	本	森	合	市	東	瀬	江	波	動	見
島	周	鹿	美	那	邑	那	飯	篠	仁	能	松	東	西	氷
取	吉	足	濃	賀	智	那	石	川	多	饒	江	瀨	瀨	見
岩	知	那	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡
美	夫	那	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	八	郡	郡	郡
郡	那	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	東	郡	郡	郡
	那	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	東	郡	郡	郡
	那	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	東	郡	郡	郡
	那	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	東	郡	郡	郡

廣											江		
島											取		
府	尾	忠	西	吉	可	廿	吳	廣	二	米	倉	吉	郡
中	山	海	條	田	部	日	島	島	部	子	吉	岡	家
甲	深	御	加	高	沼	佐	安	廣	日	西	東	氣	八
奴	津	調	茂	田	田	伯	藤	島	野	伯	伯	高	頭
郡	那	那	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡
	那	那	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡
	那	那	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡
	那	那	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡
	那	那	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡

金											田				
川											田				
輪	七	羽	津	金	松	小	大	花	湯	横	大	本	鷹	能	
島	尾	咋	幡	澤	任	松	聖	輪	澤	手	曲	庄	巢	代	
鳳	鹿	羽	河	金	石	能	江	鹿	雄	平	仙	由	北	山	
至	島	咋	北	澤	川	美	沼	角	勝	鹿	北	利	秋	本	
郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	

富											井					福	
高											井					福	
高	八	魚	上	富	高	雲	三	敦	朝	武	大	三	福	飯			
岡	尾	津	市	山	濱	濱	方	賀	日	生	野	國	井	田			
高	婦	下	中	富	大	遠	三	敦	丹	南	大	阪	福	珠			
岡	賀	新	新	山	飯	敷	方	賀	生	條	野	井	井	洲			
市	郡	川	川	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡			
射				上									足				
水				新									羽				
郡				川									郡				
				郡									吉				
				郡									田				

丸															
高		島					德					川			香
赤岡	安藝	池田	鵜飼	川島	撫養	石井	日和佐	富岡	徳島	長尾	土庄	観音寺	丸龜	阪出	
香美郡	安藝郡	三好郡	美馬郡	阿波郡 麻植郡	板野郡	名西郡	海部郡	那賀郡	徳島市 名東郡 勝浦郡	大内郡 寒川郡 三木郡	小豆郡	三野郡 豊田郡	那珂郡 多度郡	阿野郡 鶴足郡	
山					松					龜					
媛		愛					知					後免			
宇和島	卯ノ町	八幡濱	大洲	郡中	久萬町	川之江	西條	今治	松山	中村	須崎	伊野	高知	後免	
南宇和郡 北宇和郡	東宇和郡	西宇和郡	喜多郡	下浮穴郡 伊豫郡	上浮穴郡	宇摩郡	新居郡 周布郡 桑村郡	越智郡 野間郡	松山市 風早郡 久米郡 和氣郡	幡多郡	高岡郡	吾川郡	高知市 土佐郡	長岡郡	

八百六十七

岡														
津山	久世	新見	高梁	總社	笠岡	玉島	倉敷	味野	四大寺	本庄	金川	岡山	庄原	三次
西四條郡 東南條郡 西北條郡 東北條郡	大原郡 眞島郡	哲多郡 阿賀郡	上房郡 川上郡	下道郡 賀陽郡	小田郡 後月郡	淺口郡	都宇郡 窪屋郡	兒島郡	邑久郡 上道郡	和氣郡 磐梨郡	津高郡 赤阪郡	岡山市 御野郡	奴可郡 三上郡 惠蘇郡	三次郡 三輪郡
島														
口					山					山				
高松	長府	萩	深川	大田	舟木	山口	三田尻	徳山	室積	岩國	屋代	弓削	英田	勝岡田
高松市 山田郡 香川郡	赤間關市 豊浦郡	阿武郡	大津郡	美濃郡	厚狹郡	吉敷郡	佐波郡	都濃郡	熊毛郡	玖珂郡	大島郡	久米南條郡 久米北條郡	英田郡 吉野郡	勝南郡 勝北郡

八百六十六

鹿		本											
鹿		大											
伊集院	知覽	鹿兒島	四日市	中津	豆田	森	竹田	三重	佐伯	臼杵	大分	日出	國東
阿多郡 日置郡	川邊郡 <small>阿蘇郡、中津郡、日置郡、鹿兒島、 阿蘇郡、中津郡、日置郡、鹿兒島、 阿蘇郡、中津郡、日置郡、鹿兒島、</small>	給黎郡 揖宿郡 額娃郡 鹿兒島市 鹿兒島郡 谿山郡 北大隅郡	宇佐郡	下毛郡	日田郡	玖珠郡	直入郡	大野郡	南海部郡	北海部郡	大分郡	速見郡	東國東郡

島		兒											
宮		島											
高鍋	高岡	小林	都城	肥前	宮崎	大島	種子島	鹿屋	岩川	加治木	大川	出水	隈ノ城
兒湯郡	東諸縣郡	西諸縣郡	北諸縣郡	南那珂郡	宮崎郡	大島郡 <small>大島郡、川邊郡、内、竹島、日之島、 臥蛇島、平島、中之島、石島、 臥蛇島、平島、中之島、石島、</small>	熊毛郡 馭諺郡	肝屬郡 南大隅郡	東嶺嶽郡 南諸縣郡	始良郡 桑原郡 四嶺嶽郡	北伊佐郡 菱刈郡	出水郡	薩摩郡 高城郡 南伊佐郡 甑島郡

熊														
福				本										
熊				熊										
直方	蘆屋	東郷	福岡	町山口	人吉	佐敷	八代	御船	宮地	山鹿	隈府	高瀬	宇土	熊本
鞍手郡	遠賀郡	宗像郡	福岡市 早良郡 粕屋郡	天草郡	球磨郡	葦北郡	八代郡	上益城郡 下益城郡	阿蘇郡	鹿本郡	菊池郡	玉名郡	宇土郡	熊本市 飽託郡

岡														
玉津	八屋	行橋	香春	小倉	福島	三池	下瀬高	大川	久留米	吉井	前原	大野	甘木	飯塚
西國東郡	築上郡	京都郡	田川郡	企救郡	八女郡	三池郡	山門郡	三瀬郡	久留米市 三井郡	浮羽郡	糸島郡	筑紫郡	朝倉郡	嘉穂郡

沖	崎	
	延岡	東臼杵郡
沖	高千穂	西臼杵郡
	那覇	那覇區 島尻郡
首里	首里區	中頭郡
繩		
繩		
八重山	宮古	國頭
八重山郡	宮古郡	國頭郡

八百七十

○臺灣地租規則 二十九年八月律令第五號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣地租規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣地租規則

- 第一條 地租ハ舊慣ニ依リ明治二十九年ヨリ之ヲ徵收ス
- 第二條 地租ヲ逋脱シタル者ハ其納額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス
- 第三條 本規則ノ施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

○臺灣稅關管轄區域 二十九年九月勅令第三百三號

朕臺灣總督府稅關管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

淡水稅關管轄區域

富基港ヨリ南方西螺溪ニ至ル沿岸

平安稅關管轄區域

西螺溪ヨリ南方阿公店溪ニ至ル沿岸及澎湖島ノ沿岸

打狗稅關管轄區域

阿公店溪ヨリ南方鶯鶯鼻ヲ經テ北方花蓮港ニ至ル沿岸及小琉球島江頭嶼火燒嶼ノ沿岸

基隆稅關管轄區域

花蓮港ヨリ北方三貂角ヲ經テ西方富貴岬ニ至ル沿岸

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○輸出砂糖稅金下戻ニ關スル取扱規則 二十九年七月總督府令第十七號

輸出砂糖稅金下戻ニ關スル取扱規則左ノ通相定ム

輸出砂糖稅金下戻ニ關スル取扱規則

第一條 糖業稅則第十六條及同施行細則第十二條ニ依リ稅金下戻ヲ受クシカ爲輸出

砂糖ノ檢査ヲ受クントスル者ハ甲號書式ニ准シ檢査願書ニ通テ作り製造稅納濟證

書ヲ添付シ之ヲ輸出港稅關及ハ稅關出張所ニ差出シ檢査濟ノ證明ヲ受クヘシ

第二條 稅關ニ於テ前條ノ檢査願書ヲ受クルトキハ砂糖ノ檢査ヲ行ヒ願書ノ末尾ニ

證明ヲ朱記シ割印ヲ施シ一通ハ願人ニ下付シ一通ハ稅關ニ保藏スヘシ

税關出張所ニ於テ検査願書ヲ受クルルハ前項ノ手續ニ依リ證明ヲ記入シ一通ハ願
入ニ交付シ一通ハ其都度所管税關ニ送付スヘシ

第三條 糖業税則施行細則第十三條ニ依リ税金ノ下戻ヲ請求セントスルルハ乙號書
式ニ準シ製造税金下戻願書ヲ作り之ニ陸揚ノ證據書類及検査濟證明書ヲ添付シ輸
出港税關又ハ所管税關ニ差出スヘシ

第四條 輸入港ニ帝國領事ノ駐在セサルカ爲前條陸揚ノ證據書類ニ其檢印ヲ受クル
能ハサル場合ニ於テハ帝國貿易事務官若ハ所管領事ノ檢印ヲ受クヘシ

(書式)

甲 號

検査願書

(割印ハ朱書)

一何種砂糖

記 號

箇 數

斤 量

製造税金

製造地

右ハ何國何松ヲ以テ何國何港へ輸出致候ニ付御検査被成下度別紙製造税納濟證書相添此段奉願候也

年 月 日

住 所

輸 出 人

姓

名 印

何税關(何税關出張所)御中

右検査ノ上相違ナキヲ證明ス

年 月 日

何税關(何税關出張所)

乙 號

製造税金下戻願書

一何種砂糖

何 斤

此製造税金

何 圓

輸出税金

何 圓

右ハ明治年月日何國何港へ輸入致候ニ付該製造税金中輸出税相當ノ金額御下戻有之度依テ輸入港陸揚免狀
(或ハ陸揚ノ證據書類)及検査證明書相添此段奉願候也

年 月 日

住 所

輸 出 人

姓

名 印

何税關長何某殿

○税關法ヲ臺灣ニ施行ス 二十九年八月勅令第二百九十三號

朕臺灣ニ税關法ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

雜 案

明治二十三年法律第八十號稅關法ヲ臺灣ニ施行ス

○臺灣稅關長ノ判定ニ不服アルトキ裁定方 二十九年八月勅令第二百九十四號

朕稅關規則第四十三條第二項ノ除外例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第二百三號稅關規則第四十三條第二項ニ揭クル裁定ハ臺灣ニ於テ

ハ臺灣總督之ヲ行フ

○酒類造石檢査簿及製造場諸器械調查簿樣式 二十九年九月勅令第二十四號

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十七年大藏省訓令第二十八號中酒類造石檢査簿及製造場諸器械調查簿別冊ノ
通改正ス

別冊ハ主稅局ヨリ送付ス(別冊略ス) (酒造稅ノ部九一頁參觀)

○北海道水產稅算出價格 二十九年大藏省令第十一號

北海道水產稅ノ算出價格ハ奧尻組合ヲ除ク外明治二十六年一月ヨリ同二十八年十二
月マテ三箇年間水產物ノ算出高並ニ賣買相場ノ平均ニ依リ之ヲ改正シ三十年度ヨリ
施行ス (北海道水產稅ノ部二三四頁參觀)

○兵營及葉烟草取扱所ノ建築材料買受隨意契約ノ件 二十九年十月勅令第三百十七號

陸軍兵營及葉烟草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコ

トヲ得

○臺灣總督府工事又ハ物件買入借入隨意契約ノ件 二十九年九月勅令第三百十號

臺灣總督府ニ於テ千五百圓ヲ超ニサル工事又ハ物件ノ買入借入ヲ爲ストキハ隨意契
約ニ依ルコトヲ得

○北海道直營事業職工人夫雇傭隨意契約ノ件 二十九年勅令第二百八十號

北海道廳ニ於テ施行スル築港運河架橋及隧道ニ關スル工事ヲ競争ニ付スルモ入札者
ナキ爲メ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札者ニ付スルモ尙豫定價格ノ制限
ニ達セサル爲メ之ヲ北海道廳ノ直營事業ト爲シタルトキ之ニ使用スル職工人夫ノ雇傭
ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

本年勅令第二百八號ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫ノ
雇傭ニモ適用ス

○諸帳簿樣式 二十九年十月勅令第二十六號

府 縣

明治二十七年ニ當省訓令第九號別冊諸帳簿樣式中第十七號乃至第二十一號第二十三
號乃至第二十五號第二十七號乃至第二十九號第三十三號乃至第三十六號及第三十八
號左ノ通更正ス

一第十七號 營業稅臺帳

右明治三十年二月一日ヨリ施行ス

- 一 第十八號 酒造免許臺帳
- 一 第十九號 酒類製造見込石數臺帳
- 一 第二十號 酒類造石稅納稅保證臺帳
- 一 第二十一號 酒類造石稅臺帳
- 一 第二十三號 酒母製造免許臺帳
- 一 第二十四號 醱製造免許臺帳
- 一 第二十五號 自家用酒稅臺帳
- 一 第二十七號 混成酒製造免許臺帳
- 一 第二十八號 混成酒製造見込石數臺帳
- 一 第二十九號 混成酒造石稅臺帳
- 右明治二十九年^(酒造)年度^(年度)分ヨリ施行ス
- 一 第四十號 甲調定元簿所得稅ニ在テハ稅目欄ヘ市區町村名ヲ記入シ各別ニ調製スヘシ

證明規程

○支出證明規程 二十六年十二月會計検査院達第二號

第一章 計算書

第一條 會計規則第五十二條第三項ニ據リ仕拂命令官ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ支出計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 毎年度所屬最終支出計算書提出ノ期ニ際シ若シ概算渡現金前渡ノ未精算、領收證書未到達、科目違、其他過誤拂等ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ別ニ其理由及完結期限ヲ記載セル書面ヲ添付スヘシ

前項各事項ハ其完結ニ隨ヒ特ニ其報告書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第三條 左ノ事項中一項ハ最終支出計算書ニ二項乃至五項ハ毎月支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

- 一 豫算各目ノ金額及事項ニ増減異動ヲ生シタルトキハ其事由
 - 二 科目更正若クハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其金額事由
 - 三 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ編入スヘキモノアルトキハ其金額事由
 - 四 豫備金ヲ以テ補充支辨シタルトキハ其費途金額事由
 - 五 缺損補填ヲ受ケタル費項アルトキハ其金額事由
- 右ノ外法律命令及計算ノ基ク所ヲ示サ、レハ明瞭ナラサルモノ其他特殊ノ事項ハ各其金額事由ヲ掲載スヘシ

第四條 左ノ事項中一項乃至三項ハ最終支出計算書ニ四項乃至六項ハ該費證明ノ月ニ七項ハ其竣功ノ月ニ又繼續工事ニ係ルモノハ其年度内ニ於ケル竣功ノ部分ヲ分

チ各其最終支出計算書ニ添付スヘシ

- 一 當該年度俸給各節仕拂額ヲ局課（特ニ指定スルモノハ外局ニ區分セル明細書中ノ課ハ區分ヲ要セス）ニ區分セル明細書
但年度末日現在セル人員及其官等級俸等ヲ區分セル明細書ノ添付ヲ要ス
- 二 官舎ニ屬スル經費ヲ支出セシモノアルトキハ每官舎費用各節ヲ區分セル明細書
- 三 數年度ニ跨ル工事若クハ製造等ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノアルトキハ其總額、前年度迄支出額、當該年度支出額ヲ區分セル明細書
- 四 在來ノ物品ヲ建築修繕ニ供用シタルモノハ其種類價格ヲ詳記セル明細書
- 五 修繕費ニシテ一箇所金貳百圓以上ヲ要セシモノアルトキハ其建造物創設ノ年月、修繕必要ノ理由等ヲ詳記セル明細書
- 六 恩賞諸祿（一時限ハ給與ノ分ヲ除ク）ノ支出ニハ其年額、渡期、受領者ノ舊官等又遺族ノ受領ニ係ルモノハ其權利起因ノ人名官等（例ヘハ其妻ナレハ其夫孤兒ナレハ其父）其他受領者ノ轉入轉出權利ノ停止消絶及復給アルトキハ其年月日及事由ヲ詳記セル明細書
- 七 直營工事ニ屬スル竣功明細書

第二章 證憑書類

第五條 支出證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事及

物件ノ購買借入ニ關スル各種契約書其他事實ノ確實ヲ證スル書類トス
第六條 證憑書類ハ原本ニ限ル若シ其原本ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏ノ保證アル謄本ヲ以テスヘシ

第七條 會計規則第八十條第八十一條ニ基キ取結セタル金額五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル競争契約書ニハ左ノ書面ヲ添付スヘシ
一 工事若クハ物件必要ノ理由書
二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但再入札ノ場合ニ於テハ前公告書共
三 落札者其工事又ハ物品供給ニ二年以來從事セル證明書
四 豫定價格調書

第八條 落札以下三番札迄但再入札ノ場合ニ於テハ前入札最低ノ分共
金額五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ係ル隨意契約書ニハ其工事若クハ物件ノ必要ナル理由及競争契約ニ依ラサリシ理由ノ説明書ヲ添付スヘシ
第九條 工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂タルトキハ其領收證書ニ會計規則第六十七條第三項ニ據リ検査官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十條 金額五百圓以上ノ工事竣功シタルトキハ會計規則第六十七條第一項ニ基キ

當該官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十一條 俸給其他與給ニ屬スル支出ニシテ任免黜陟其他缺勤等ノ事故ニ由リ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ領收證書ニ付記スヘシ

奏判任文官ノ新任者退官賜金ヲ受ル退官者ニ對シテハ其履歷書新任者ニハ尙ホ其資格ヲ認ムヘキ證書等ノ謄本ヲ添付シ轉任昇級者ニ對シテハ各其前級發令ノ年月日ヲ領收證書ニ付記スヘシ

仕拂期限ノ定リタルモノニシテ其期限ニ先ダテ若クハ後レテ支出ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ領收證書ニ付記シ又轉任死亡退職等ノ事故ニ由リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ其事由ノ報告ヲ要ス

第十二條 諸手當其他賞與贈與慰勞金等ハ其領收證書ニ各其事由ヲ詳記シ特例ニ屬スルモノアルトキハ其事由ヲ確認スヘキ當該上官ノ決議書類ヲ添付スヘシ

第十三條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日往復里程宿泊場所ヲ詳記セル明細書ヲ添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ掲記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

迂路ヲ經テ旅行セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ由リ公務外日數ヲ要シタルトキ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルトキハ當該上官ノ認許書ヲ添付スヘシ

第十四條 物件購買ニ關スル證書ニハ每品ノ種類箇數斤量及單價ヲ掲ケ箇數ニ付價格ヲ定メタルモノハ其箇數ニ對スル價格ヲ示シ又割引ニ係ルモノアルトキハ其旨ヲ記シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

物件購買ニ關スル領收證書ニハ官有財產簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ詳記スヘシ但購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノアルトキハ其事由ヲ付記スヘシ

第十五條 諸拂戻缺損補填金ノ領收證書ニハ其決定ヲ達シタル年月日支出ヲ要スル事實ノ生シタル年月日支出ノ請求ヲ爲シタル年月日及支出ヲ要スル事由計算ノ基ク所ヲ詳記セル書類ヲ添付スヘシ

第十六條 誤拂過渡其他ノ事故ニ由リ歳入ヘ納付シタルモノアルトキハ當該金庫ノ領收ヲ保證セル書面ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

第十七條 外國文ヲ以テ記載シタル證書類ハ其譯文、外國貨幣ヲ以テ仕拂タルモノハ其爲換相庭及換算調書ヲ添付スヘシ

第十八條 前各條ニ據リ難キ事項ハ適實ノ方法ヲ以テ支出必要ノ事由又ハ其計算ノ基ク所ヲ示シ事ノ複雜ニ涉ルモノハ明細書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書又ハ認許書若クハ決議書ヲ添付スヘシ

第十九條 止ムヲ得サル事故ニ由リ正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル主任官吏ノ任拂書ヲ以テ證明スルコトヲ得

第二十條 概算渡ニ對スル領收證書ハ精算ニ至リ該精算證書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ但最終支出計算書提出ノ期ニ際シ尙ホ精算ニ至ラサルモノアルトキハ該支出計算書ニ添付提出ヲ要ス

第二十一條 證憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其金員枚數ヲ表記シ若シ概算渡又ハ領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金員ヲ付記スヘシ但各目ノ枚數僅少ナルトキハ合冊ト爲スモ妨ケナシ
一 任拂豫算中ニ係ル支部局ニ屬スル證憑書類ニシテ別冊ト爲セシモノアルトキハ其金額及支部局名ヲ其本廳證書ノ表紙ニ記載スヘシ
集合任拂命令及金庫所在地外ニ於テ任拂ヲ要スヘキ裏書アル任拂命令集合任拂命令ニ對スル金庫領收證書ハ各項ニ區分編纂スヘシ
前項ニ關スル支出證憑書類ハ其債主ノ現金領收證書ニ併セ編纂スヘシ
概算渡ニ屬スル領收證書精算證書又ハ未到達ニ係ル領收證書ノ到達セシ分ハ各之ヲ別冊ニ編纂シ月ヲ以テ區別スヘシ

廿七年七月二日
追加第二十號

領收證書ニハ任拂命令ノ番號ヲ付記スヘシ

當該年度最終支出計算書提出ノ期ニ際シ尙ホ現金領收證書ノ到達セサルモノアルトキハ右ニ關スル支出證憑書類ハ別ニ之ヲ整理シ該支出計算書ニ添付提出スヘシ

附則
第二十二條 本現程ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス(書式略ス)

參照

○過年度支出内譯揭載方ノ件 (北海道廳)照會二十七年一月十五日

過年度支出内譯揭載方ハ(文中支出額及殘額調査上六日子ヲ要スル事由揭アレントモ略ス)廿五年度前ニ係ルモノニ限リ各命令官ニ在テハ支出額ノヨリ揭ケ則ニ道廳長官ヨリ月々過年度支出ヲ決定シタル科目金額ヲ各命令官ニ區分報告スルコトニ致シタシ

回答 已ムヲ得サル義ニ付來意ノ通りニテ然ルヘク候尤モ貴官(道廳長官ノコト)ヨリ提出ノ報告書ハ勿論其都度豫算殘額揭載ノ事ト存候

○會計主務官概算支出未精算ノ件 (逓信省)照會廿六年十二月廿六日

會計主務官ノ概算支出金ニシテ廿七年一月一日前ニ精算ニ至ラサルモノハ該官ヨリ未精算額ヲ支出ノ月別ヲ以任拂命令官ニ引繼キ命令官ハ之ヲ概算渡内譯相當月別ノ欄ニ揭載シ備考ニ會計主務官ヨリ繼續シタル旨ヲ記載シ之ヲ提出シ差支ナキ乎
一 回答 差支ナシ

○支出計算書調製方ノ件 (青森縣)照會廿七年一月十七日

證明規程

支出計算書及仕拂計算書ハ廿七年一月一日以降仕拂ニ係ル分ヨリ廿六年十二月貸院達第二號第三號ノ規程ニ據
リ調製スルヘキ乎

追テ一月分仕拂計算書ノ元受高及仕拂精算高中前月迄領收高若クハ精算高ノ欄并返納高ノ欄ヘハ廿六年四月
ヨリ十二月迄ノ分ヲ計算掲出(交管有之モ總テ併算)可然乎(後段略ス)

回答 來意ノ通り但廿六年四月ヨリ十二月迄ニ仕拂命令濟トナリタル分モ併算スル義ナリ追書ノ分前段ノ通

○支出計算書記載方等ノ件 (北海道廳)照會廿七年一月十七日

(一)各地送金ノ仕拂命令ニ對シテハ金庫ノ領收證書ヲ以テ證明スルコトト成リシ上ハ證書未到達ノ場合ナキカ
如シ然ルニ支出證明規程中該條項ノ存スルハ如何ナル義ナル乎

(二)現金前渡仕拂命令發行額ノ計ハ發行高ノ加算額ヨリ定額戻入高ノミヲ引去リ掲載スヘキ乎

(三)概算渡内譯中概算渡高ノ内廿六年十二月卅一日前ノ仕拂ニテ同日ノ現未精算高ハ其合計額ヲ記シ前各月ニ
區分セサルモ差支ナキヤ

(四)内譯ハ月毎ニ調製スヘキモノ、如クナレトモ當廳ノ如キハ旅費ノ包含セル費目不夥故ニ毎月調製ハ容易ナ
ラサルニ付項別ニ致シタシ

(五)第四條第五項ニハ道路修繕費ノ如キハ包含セザルヤ

(六)第十一條末項中支給ヲ止メタルモノハ領收證書若クハ證書又ハ計算書備考ニ其事由ヲ記シ報告ニ代フル
モ差支ナキヤ

回答 (一)各地送金ニ係ル仕拂ト雖規程第五條ニ依リ正當債主ノ領收證書ヲ提出スヘキモノナリ

(二)定額戻入并ニ歳入納付高ヲ引去リ掲記スヘシ

(三)前各月ノ區分ヲ要ス

(四)旅費ノ項ハ毎月區分ヲ要ス其他ハ已ムヲ得サルニ付毎項ノ區分ニテ然ルヘシ

(五)橋梁等建築物ニ準スヘキモノハ第四條第五項ニ從ヒ證明ヲ要ス且修繕必要ノ理由等ヲ詳記セル明細
書ハ工事ノ何タルヲ問ハス之カ提出ヲ要ス

(六)特ニ報告書ヲ以テ申報ヲ要ス

○五百圓未満各種契約ノ證書提出方ノ件 (長崎縣)照會二十七年一月十五日

會計規則第八十二條但書ニ據リ一口五百圓未満ニ係ル各種契約書ハ自今證書トシテ提出方者略致度差支無之
哉又支出證明規程第十一條第三項中支給ヲ止メタルモノ、報告ハ總テ其領收證書ニ付記スル場合無之者ヲノミ
要スルモノト相見込候處該報告ハ各自ニ區分セル證書ノ末尾ニ轉任死亡退職者ノ年月日等掲記添屬シ置ク時ハ
別ニ報告書トシテ提出セザルモ差支無之哉

回答 二十七年二月八日

前段後段トモ御意見ノ通ニテ可然

○金庫領收保證書ノ件 (廣島縣)二十七年二月十四日

客年貸院達第二號支出證明規程第十六條ニ據リ提出スル金庫領收保證書ノ儀ハ事務省略ノ爲メ客年大藏省令第
三十二號附屬第三號書式及同年同省訓令第四十二號附屬甲號書式ノ通知書ヲ當該官吏ヨリ送付ヲ受ク之ヲ保
證書ニ代用シ證明候得者彼是便宜ノ儀ト存候得共如何可有之哉

回答 二十七年二月二十四日(電報)

來示ノ通

○現金前渡金仕拂證明規程 二十六年十二月會計検査院達第三號

證明規程

第一章 計算書

第一條 會計規則第九十八條ニ據リ現金前渡ヲ受タル官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ仕拂計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 現金前渡ヲ受タル官吏ニシテ交替アリシトキハ後任官吏ノ證明スヘキ仕拂計算書ニ於テハ尙ホ前任官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ

第三條 左ノ事項ハ仕拂計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書若シハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

- 一 科目更正ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由
- 二 過誤拂金ノ還納ヲ爲サシムヘキモノアルトキハ其金額事由
- 三 會計規則第八十八條ニ據リ各省大臣ヨリ損失金ノ辨償ヲ命セラレタルトキハ其金額事由
- 四 缺損補填ヲ受タル費項アルトキハ其金額事由
- 五 後任官吏ニ於テ前任官吏ヨリ現金ノ引繼ヲ受タルモノアルトキハ其金額事由

右ノ外法律命令及計算ノ基ク所ヲ示サ、レハ明瞭ナラサルモノ其他特殊ノ事項ハ各其金額事由ヲ掲載スヘシ

第四條 左ニ掲クル書類ハ各其仕拂計算書ニ添付スヘシ但第四項ハ其竣功ノ月又繼續工事ニ係ルモノハ其年度内ニ於ケル竣功ノ部分ヲ分チ各其年度最終ノ仕拂計算書ニ添付スヘシ

- 一 概算渡ノ未精算ニ屬スルモノアルトキハ各其當初交付ノ年月日及概算渡高、精算高、未精算高並其事由ヲ詳記セル明細書
- 二 在來ノ物品ヲ建築修繕ニ供用シタルモノハ其種類價格ヲ詳記セル明細書
- 三 修繕費ニシテ一箇所金貳百圓以上ヲ要セシモノアルトキハ其建造物創設ノ年月、修繕必要ノ理由等ヲ詳記セル明細書
- 四 直營工事ニ屬スル竣功明細書

第二章 證憑書類

第五條 仕拂證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事及物件ノ購買借入ニ關スル各種契約書其他事實ノ確實ヲ證スル書類トス

第六條 證憑書類ハ原本ニ限ル若シ其原本ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏ノ保證アル謄本ヲ以テスヘシ

第七條 會計規則第八十條第八十一條ニ基キ取結ヒタル金額五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル競争契約書ニハ左ノ書面ヲ添付スヘシ

證明規程

一 工事若クハ物件必要ノ理田書

二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但再入札ノ場合ニ於テハ前公告書共

三 落札者其工事又ハ物品供給ニ二年以來從事セル證明書

四 豫定價格調書

五 落札以下三番札迄但再入札ノ場合ニ於テハ前入札最低ノ分共

第八條 金額五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ係ル隨意契約書ニハ其工事若ク

ハ物件ノ必要ナル理由及競争契約ニ依ラザリシ理田ノ説明書ヲ添付スヘシ

第九條 工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂タ

ルトキハ其領收證書ニ會計規則第六十七條第二項ニ據リ検査官吏ノ作リタル調書
ヲ添付スヘシ

第十條 金額五百圓以上ノ工事竣功シタルトキハ會計規則第六十七條第一項ニ基キ
當該官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十一條 俸給其他給與ニ屬スル仕拂ニシテ任免黜陟其他缺勤等ノ事故ニ依リ給額
ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ領收證書ニ付記スヘシ

奏判任文官ノ新任者退官賜金ヲ受ル退官者ニ對シテハ其履歷書新任者ニハ尙ホ其
資格ヲ認ムヘキ證書等ノ謄本ヲ添付シ轉任昇級者ニ對シテハ各其前級發令ノ年月

日ヲ領收證書ニ付記スヘシ

仕拂期限ノ定リタルモノニシテ其期限ニ先タチ又ハ後レテ仕拂ヲ爲シタルモノハ
其事由ヲ領收證書ニ付記シ又轉任死亡退職等ノ事故ニ依リ支給ヲ止メタルモノア
ルトキハ其事由ノ報告ヲ要ス

第十二條 諸手當其他賞與贈與慰勞金等ハ其領收證書ニ各其事由ヲ詳記シ特例ニ屬
スルモノアルトキハ其事由ヲ確認スヘキ當該上官ノ決議書類ヲ添付スヘシ

第十三條 旅費ノ領收證書若クハ其精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日往復里
程宿泊場所ヲ詳記セル明細書ヲ添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ掲記シテ明
細書ヲ省クコトヲ得

迂路ヲ經テ旅行セシモノ又ハ病氣滯在在其他ノ事故ニ由リ公務外日數ヲ要シタルト
キ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルトキハ當該上官ノ認許書ヲ添付スヘシ
第十四條 物件購買ニ關スル證書ニハ每品ノ種類箇數斤量及單價ヲ掲ク數箇ニ付
價格ヲ定メタルモノハ其數箇ニ對スル價格ヲ示シ又割引ニ係ルモノアルトキハ其
旨ヲ記シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

物件購買ニ關スル領收證書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ詳
記スヘシ但購買ノ際直ニ消費シ物品出納簿ニ登記セサルモノアルトキハ其事由ヲ

付記スヘシ

第十五條 外國文ヲ以テ記載シタル證憑書類ハ其譯文外國貨幣ヲ以テ仕拂タルモノハ其爲換相庭及換算調書ヲ添付スヘシ

第十六條 前各條ニ據リ難キ事項ハ適實ノ方法ヲ以テ仕拂ノ必要ナル事由又ハ其計算ノ基ク所ヲ示シ事ノ複雜ニ涉ルモノハ明細書ヲ添付シ臨時特殊ニ係ル事項ハ當該上官ノ命令書認許書又ハ決議書ヲ添付スヘシ

第十七條 止ムヲ得サル事故ニ依リ正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル仕拂書ニ當該上官ノ認定ヲ受ケ之ヲ證明スルコトヲ得

第十八條 概算渡ニ對スル領收證書ハ精算ニ至リ該精算證書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ

但翌年度六月分仕拂計算書提出ノ期ニ際シ尙ホ精算ニ至ラサルモノアルトキハ該仕拂計算書ニ添付提出ヲ要ス

第十九條 證憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其金員枚數ヲ表記シ若シ領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金員ヲ付記スヘシ但各目ノ枚數僅少ナルトキハ合冊トナスモ妨ケナシ

分任出納官吏ノ證憑書類ハ各別ニ編纂シ其表紙ニ當該官吏官氏名ヲ掲記シテ之ニ捺印シ主任出納官吏ノ證憑書表紙ニハ各分任出納官吏ノ取扱金額及其官氏名ヲ區分掲載スヘシ

未到達ニ係ル領收證書ノ到達セシ分ハ之ヲ別冊ニ編纂シ月ヲ以テ區分スヘシ

第三章 下検査

第二十條 下検査官吏ニ於テ仕拂計算書類ヲ受タルトキハ其受領ノ日ヨリ十五日以内ニ下検査ヲ完了シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第二十一條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計算書明細書其他證憑書類ノ件名冊數

二 仕拂計算書ト現金出納簿トノ符合及其現存額ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ事由金額

四 證憑書類中検査終了ノ上返付ヲ要スル書類ノ件名冊數

第二十二條 現金前渡ヲ受タル官吏ニ對スル審理書及之ニ對スル報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附則

證明規程

第二十三條 本規程ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス(書式略ス)

參照

○監督官吏ノ保證書書方ノ件 (北海道廳)照會二十七年一月十七日

第二十一條二項ハ臨時出納官吏ノ如キ各起業地ニ出張仕拂チ爲スモノ及戶長役場經費等ノ出納官吏ニシテ其地ニ監督官吏ナキ場合ハ之ヲ保證チ省略提出シ然ルヘキ哉

回答 出納官吏在勤地ニ監督官吏ナク實際其保證チ爲シ難キ場合ニ於テハ下検査官ニ於テ其事由チ下検査官ニ詳記チ要ス

○仕拂證明規程ニ關スル計算書調製ノ件 (茨城縣)照會明治二十六年十二月二十八日

本月十一日御院達第二號ヲ以テ支出證明規程定メラレ候處計算書調製方等疑義ノ廉左ニ

一會計法第二十三條ニ依レハ誤拂過渡トナリタル金額ノ返納及出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入等ハ現年度ノ歳入ニ編入シ定額戻入ノ如ク仕拂額ヨリ差引計算ナスヘキモノニ無之候處計算書式中現金前渡仕拂命令發行濟額ノ部本月返納高ノ欄内歳入ヘ納付ノ區分ケアリテ發行高ヨリ歳入納付額ヲ差引計算スヘキモノノ如ク相見候得共右ハ如何ナル旨趣ニ可有之哉

一二十七年一月分計算書調製ニ際シ前月迄發行高ノ區ヘハ本年十二月迄會計主務官ニ於テ調定シタル金額ヲ仕拂命令發行濟額ノ部及現金前渡仕拂命令發行濟額ノ部當該區ヘ分割掲載スヘキ義ナルヤ

一二十七年一月一日以降ハ金庫所在地外ヘ送金ノ場合ニハ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ右ニ對シ金庫領收證書ヲ徵シ該證書ヲ以テ支出ノ證據トスヘキニ付テハ同日以降領收證書未到達ノ生スヘキ場合無之ト被存候然ルニ領收證書未到達内譯ノ部テ股ケラレタルハ如何ナル場合ナルヤ

一前項金額所在地外ヘ送金ノ仕拂命令ニ對シ金庫ヨリ徵スル領收證書ハ單ニ金額仕拂命令番號ヲ記載シタルノミナレハ別ニ算出ノ基ク所ヲ詳悉シタル仕拂額ヲ添付證明セサルヲ得ザル義ナントモ事由ノ簡單ナルモノハ該領收證書ヘ債主氏名並ニ事由ヲ付記シ別ニ仕拂額ヲ添付セサルモ差支ナキヤ

一會計主務官ヨリハ本月分仕拂内譯書及本月迄ノ支出計算書ヲ從前ノ證明規程ニ依リ調製提出セシムヘキ哉、一前項提出スヘキモノトセハ證書ノ未到達ニ屬スルモノハ爾後到達ニ從ヒ主務官ニ於テ整理提出セシムヘキ哉、或ハ仕拂命令官ニ於テ引續チ受ケ同官ヨリ新規規程ニヨリ領收證書未到達内譯ノ部ニ掲載整理スヘキヤ

(會計検査院長)回答 明治二十七年一月十七日

第一項 現金前渡仕拂命令發行濟額ノ部本月返納高ノ欄内歳入納付額ヲ差引計算シアルハ直ニ仕拂計算書ト符合チ認ムルノ便ト爲シタル義ナリ

第二項 見込ノ通り

第三項 支出證明規程第五條ニ據リ正當受取人ノ領收證書ヲ以テ證明スヘキ義ニ付領收證書未到達ノ内譯ヲ要セリ

第四項 前項ノ旨趣ニ據リ自ラ明了ニ歸スヘシ

第五項 意見ノ通り

第六項 前段意見ノ通り

○租稅外歳入調定額證明規程 二十七年三月會計検査院達第八號

第一條 會計規則第五十二條第二項ニ據リ歳入調定官ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ租稅外歳入調定額計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 左ノ事項ハ調定額計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明

證明規程

書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

一 調定上ノ過誤ニシテ其下戻ヲ要スヘキモノアルトキハ其金額事由既ニ下戻ヲ了シタルモノハ其年度年月日共但數箇所ニ主任收入官吏ヲ置キタルモノハ各官吏取扱額ノ區分ヲ要ス

二 調定不足ニシテ追徴ヲ要スヘキモノアルトキハ其金額事由

第三條 歳入調定ニ關スル證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

第一 左ノ事項ニ對シテハ其契約書但契約書ヲ要セサリシモノハ其決議書

一 地所及建物ノ拂下

二 見積價格貳百圓以上ノ物品拂下

三 一箇年若クハ一回貸下料金五圓以上ノ地所其他ノ貸下但官舎貸下料及敷

地料ハ之ヲ除ク尤官舎貸下料額ニ異動ヲ生シタルトキハ其評價書及異動ノ理由書ヲ要ス

四 艦船製造修繕ノ受託

第二 海外電報料ニ對シテハ各郵便電信局ノ報告ニ係ル電報類別總計表

第四條 會計規則第八十條第八十一條ニ基キ取結ヒタル賣却又ハ貸下ニ關スル競争契約書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 物件賣却又ハ貸下ノ理由書

二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但再入札ノ場合ニ於テハ前公告書共

三 豫定價格調書

四 落札以下三番札マテ但再入札ノ場合ニ於テハ前入札最高以下三番札迄ノ分共

第五條 證憑書類中既ニ他ノ計算證明上會計検査院ニ提出濟ノモノアルトキハ其事

由ヲ調定額計算書ノ備考ニ掲載スヘシ

第六條 證憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其枚數ヲ表記スヘシ尙ホ細別ヲ要スルモノ

ハ適宜其區分ヲ爲スヘシ但各目ヲ合セテ簿冊ヲ成セシモノハ區分ヲ要セス

附則

第七條 税關雜收入ニ關スル證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本規程ハ明治二十六年分ヨリ施行ス(書式略ス)

○租稅外收入證明規程 二十七年三月會計検査院達第九號

第一條 會計規則第九十五條第九十七條ニ據リ收入官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘ

キ租稅外收入計算書現金出納計算書ハ別記第一號及第二號書式ニ依リ之ヲ調製ス

ヘシ

第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官吏ノ證明スヘキ收入計

證明規程

算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ
前任收入官吏ヨリ提出スヘキ收入計算書中調定濟額ハ當該歲入調定官ノ保證ヲ受
ケテ之ヲ提出スヘシ

身元保證金ヲ納メタル分任收入官吏交替ノトキハ特ニ其收入計算書ヲ調製シ證明
ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ在テハ主任收入官吏ヲ經由スヘシ

第三條 毎年度歲入調定濟額ノ内收入未濟ニ係ルモノアルトキハ毎件其金額事由所
屬年度及督促ノ顛末等ヲ詳記セル收入未濟額明細書ヲ調製シ收入計算書ニ添付ス
ヘシ但事ノ複雜ナラサルモノハ計算書ノ備考ニ記載シ明細書ヲ省略スルコトヲ得

第四條 左ノ事項ハ各其計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書
若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

一 前年度ヨリ繰越ノ收入未濟額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其金額事由
二 缺損補填金ヲ受タルモノアルトキハ其金額事由
三 金庫ヘ拂込未濟ノ金額アリシトキハ其事由

第五條 現金出納證明上提出スヘキ證憑書類ハ金庫ノ領收證書トス
證憑書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金員枚數ヲ表記スヘシ但枚數僅少ナルトキハ
合冊ト爲スモ妨ケナシ

第六條 下検査官吏ハ計算書ノ下検査ヲ完了シ左ノ期限内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計檢
査院ニ送付スヘシ

一 收入計算書ハ翌年度九月二十五日以内
二 現金出納計算書ハ翌年度六月二十五日以内

第七條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 計算書若クハ證憑書類ノ件名冊數

二 收入計算書ハ收入簿現金出納計算書ハ現金出納簿トノ符合及拂込未濟現存額
ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督
ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ金額事由

第八條 收入官吏ニ對スル審理書及之ニ對スル報答書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘ
シ

附 則

第九條 稅關雜收入ニ關スル證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 本規程ハ明治二十六年分ヨリ施行ス

第十一條 明治二十七年一月一日以前ヨリ收入官吏ノ職ニ在テ引續キ分任收入官吏

トナリタルモノハ總テ其計算ヲ主任收入官吏ノ計算書ニ併算シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ(書器式)

○國稅臺帳樣式、地租ニ關スル帳簿樣式、土地臺帳市町村計樣式等更正廿七年二月大藏省訓令第九號

府縣

明治十八年(九月)當省達第六十四號國稅臺帳樣式同二十三年(二月)當省訓令第十號地租ニ關スル帳簿樣式及同二十五年(十一月)當省訓令第四十四號土地臺帳市町村計樣式別冊ノ通更正シ明治二十七年分ヨリ施行ス

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス(別冊略ス)

○收納簿徵稅元帳調製方 廿七年二月訓令第十一號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

市町村ニ備フヘキ國稅金徵收簿其他一人別徵稅元帳ハ別冊樣式ニ準據シ漸次調製セシムヘシ

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス(別冊略ス)

○國稅賦課現計書及報告表調製手續 廿四年十月大藏省訓令第七十五號

北海道廳 府縣

國稅賦課現計書及報告表左ノ手續ニ據リ調製シ本年度分ヨリ當省へ送付スヘシ但明治二十三年(三月)當省訓令第二十九號及本年(六月)同訓令第五十二號ハ二十

○廿六年四月
訓令第十號
以テ甲種
課式ノ項
分第三項
凡例第六
第三項同
例第十號
但明治二
十六年訓
令第二十
六號ニシ
テ本年調
製スヘシ

四年度分ヨリ廢止ス

一現計書ハ別紙甲號樣式ニ倣ヒ地租ハ曆年其他ノ國稅ハ會計年度ノ區分ニ隨ヒ其年度間ニ賦課シタル物件ノ員數並ニ租稅額ヲ掲記シ翌年度五月十五日限り送付スヘシ

但樣式ハ主稅局ヨリ送付ス(樣式略)

二現計書送付後該書ノ記載誤リ或ハ組違ヘ等發見セシトキハ年度經過後七箇月以内ニ該現計書ノ訂正方申請スヘシ

三本年度所屬ニシテ翌年四月一日以降發見ニ係ル賦課洩ハ會計規則第一條第二ニ過誤納下戻シハ同規則第二條第二ニ依リ發見年度ニ於テ整理スヘシ

四用紙ハ明治二十三年當省訓令第四百一十一號ニ依リ調製スヘシ

五報告表ハ別紙乙號樣式ニ倣ヒ調製送付スヘシ

六沖繩縣酒造免許稅ハ(燒酎、酒精、何々)及過年度收入分ハ(何年度分追徵)ト各任譯書但書中ニ附記スヘシ

但地租表並ニ酒造免許稅日本形大船稅ノ樣式ハ從來ノ例ニ依リ調製送付スヘシ七報告表中本年十月以前ニ報告スヘキ分ハ本年ニ限り十一月三十日限り送付スヘシ

證明規程

○荒地其他ノ年期地増減表、諸營業鑑札下付高表、國稅賦課計算書、及ヒ報告表様式等更正 二十七年二月訓令第十號 北海道廳 府縣

明治二十二年(二月)當省訓令第四十一號荒地其他ノ年期地増減表同二十五年(二月)當省訓令第八號諸營業鑑札下付高表同二十四年(十月)當省訓令第七十五號國稅賦課現計書及ヒ報告表様式別冊ノ通更正ス

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス(別冊零ス)

○過誤納額ヲ調定超過額ト更正ノ件 二十七年七月訓令第四十六號 北海道廳 府縣
本年當省訓令第九號同第十號國稅ニ關スル別冊様式中過誤納額トアルヲ調定超過額ト更正ス

三版増訂 現行租稅法規終

明治二十七年四月十二日印刷
明治二十七年四月十五日再發行
明治二十七年六月廿七日發行
明治二十七年十一月廿五日増訂三版印刷
明治二十九年十一月廿九日發行

定價 金八拾五錢

編輯者

大分縣士族

中里眞喜司

東京市神田區小川町一番地

編輯者

香川縣平民

福田秀太

東京市麴町區富士見町六丁目十番地

發行者

下村初太郎

東京市日本橋區下槇町九番地

印刷者

秀英舍

山本鏌次郎

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所

群書

東京市日本橋區下槇町九番地

印刷所

株式會社 秀英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地



447W-79

栃木縣簡易農學校教諭 山下安太郎先生校閱 中村尾之吉先生編

近世實用珠算例題

本年八月新刊
壹冊 定價金拾貳錢
郵税金四錢
郵券代用一割増ノ事

本書ハ編者が多年小學校ニ於テ實地生徒ニ教授シタル例題數千ヲ集メ且ツ諸書ヲ參考シテ順序正シク編纂シ尙ホ山下先生カ叮嚀親切ニ校閲セラレタルモノ故小學校生徒ノ參考書トシテ用ユル時ハ教案ノ勞ト生徒ニ書寫セシムル時間ト紙筆ノ費用トヲ省クハ勿論且誤寫ノ憂モナク至極適當ノモノナリ亦之ヲ實業家子弟ノ自修用ニ供スルトキハ既ニ世上ニ流布スル無味ニシテ實地ニ適セサル陳腐ノ塵効記ト大ニ異リ眞ニ實地ニ應用シ得ル唯一ノ良書ナリ請フ一本ヲ購ヒ其虛ナラサルヲ知り玉ハンコト

東京市日本橋區下槇町九番地 群 書 城

經濟雜誌社圖書賣捌所

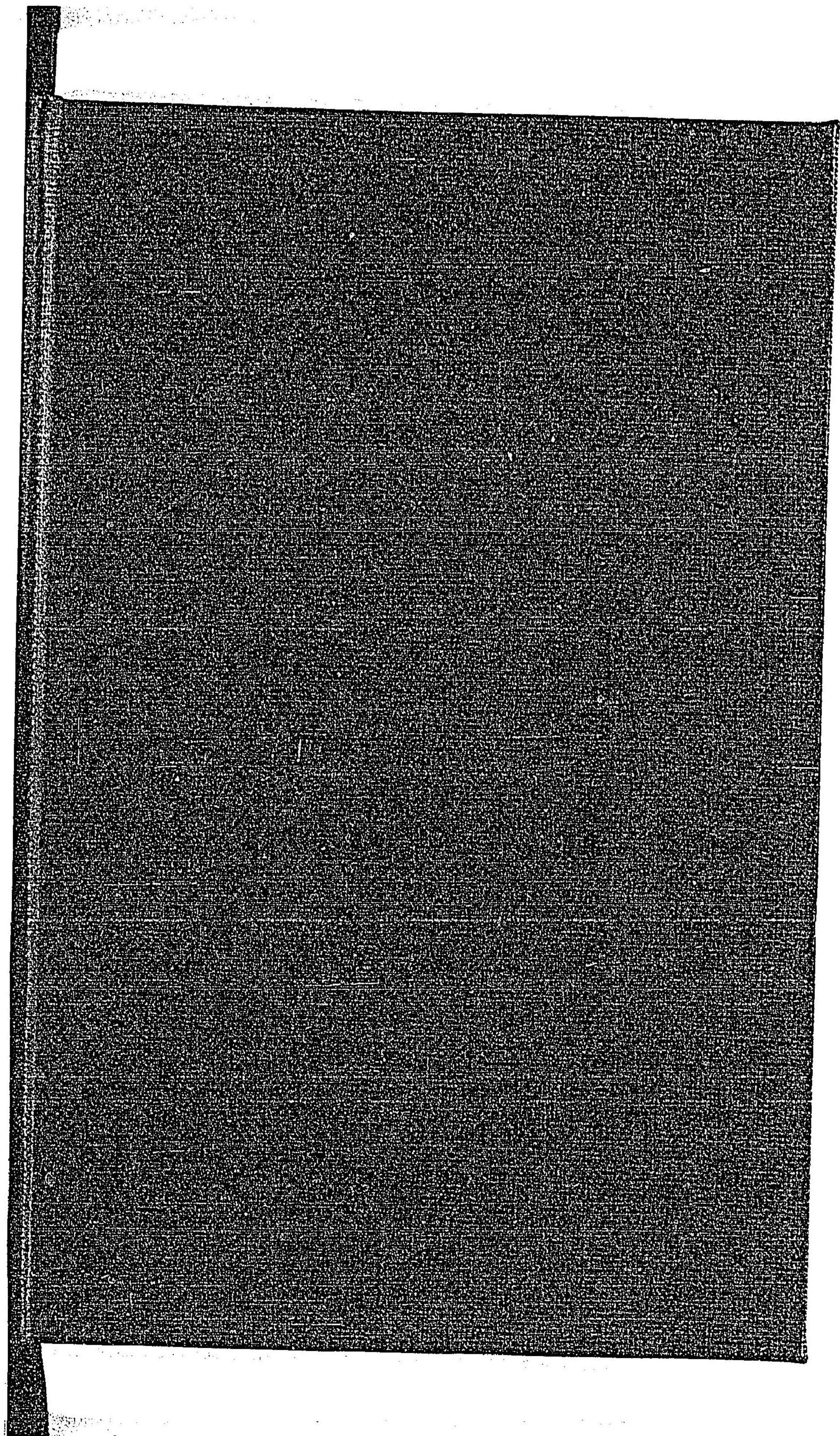
哲學書院圖書賣捌所

大日本圖書株式會社甲乙部圖書賣捌所

學齡館圖書賣捌所

右之外小學校範師學校用教科書ヲ始メ圖引器械及定規類モ各店ト特約ヲナシ諸品共精々安價ニ願上候間何卒御用





禁電子式複写